

下ニ属ス)ノ小松書記生ニ内話セシ要領左ノ如シ
從来革命党ハ湖北ニ於テハ單ニ情報通信ノミニ力ヲ致シ居
リシモ上海騒動前後ヨリ当地軍隊部内ニ運動ヲ開始スルニ
至レリ湖北ニ於ケル軍隊ハ武昌漢陽ニ在ルモノハ北軍ノミ
ニシテ面識アルモノナキニ付之ヲ勧誘スルニ極メテ困難ヲ
感シタルモ石星川ノ率ユル湖北第一師、黎天才ノ率ユル第
十一師内ニ現ニ四分ノ一位ノ内応者アリ

雲南事變ニ閻シテハ蔡鍔ノ未タ雲南ニ入ラサル以前ニ於テ
同人ト唐繼堯トノ間ニ默契アリタルモノナリ又最近ノ報告
ニ依レハ広西ノ陸榮廷モ亦不日反袁ノ旗ヲ挙クル筈ナリ
長江筋ニ於テ態度曖昧ナルハ馮國璋ニシテ革命党側ノ申入
ハ必ズシモ絶対的ニ拒絶シ居ラサルモ去リトテ未タ十分信
頗スヘキニアラス但シ參謀總長ニハ到底就任セサルモノト

観測セラル南京軍隊中ニハ多少内応者アル見込ナリ張勲ハ
全然袁派ニシテ如何ニ運動スルモ望ナキモノノ如シ
湖南湯將軍ノ立場ハ世上伝説ノ如ク地方人民トモ悪ク又一
方袁一派トモ反目スルノ有様ナレハ此際勧誘運動ヲ開始ス
ル意向ニシテ本日当地同志間ヨリ更ニ状勢視察員ヲ派遣ス
ルコトニ決セリ

四川ニ在リテハ陳將軍自身ハ袁一派ナルモ其參謀部内及軍
隊中ニハ多少望アルモノアリ是亦多少形勢觀望中ナリ
要スルニ革命党連中ハ雲南事變ノ進捗ト共ニ必ス之ヲ大事
化セントスル決心アリテ今回ハ必ス物ニナルヘシトノ信念
ヲ抱キ居レリ云々

在支公使ヘ転電セリ

事項II 中國革命党關係者ノ動靜 〔閻スル件

III.OII 一月四日 在本邦仏國大使ニ
松井外務次官宛

広州湾ニ於テ仏國官憲ニ逮捕サレタル中國革
命黨員ノ為在日孫逸仙モ印度支那總督宛發
電〔閻スル件

NOTE pour Monsieur MATSUI, Vice-Ministre des
Affaires Etrangères
Soi-disant intervention de SUN-YAT-SEN,
résidant au Japon, en faveur de révolution-
naires Chinois arrêtées par les autorités
françaises à Kouang-Che-Wan.

Plusieurs Chinois suspects d'intrigues révolution-
naires ayant été arrêtées à Kouang-Che-Wan, le Gou-
verneur Général de l'Indochine a reçu, fin Novembre
et le 5 Décembre derniers, 2 télégrammes de Tokyo,
signés "Sun-Yat-Sen", recommandant ces individus à
la surveillance de la Justice.

Le Gouverneur Général a aussitôt demandé à
l'Amphassaade de vouloir bien faire contrôler, si pos-
sible, si Sun-Yat-Sen était bien l'auteur des 2 télé-

grammes précitées et de tâcher, dans ce cas, de savoir
comment il justifiait son intervention en faveur des
inculpés.

L'Ambassade a alors fait une démarche officieuse
au Ministère de l'Intérieur, qui a cru devoir, à son
tour, lui indiquer Mr. Yoshida, du Gwai-Mu-Sho,
comme étant susceptible de faire donner à l'affaire
la suite désirée. Mais celui-ci n'a pu, finalement, que
donner connaissance à l'Ambassade de l'adresse de
Sun-Yat-Sen à Tokyo.

Tokyo, le 4 Janvier 1915.
L'Ambassadeur de France'

(右訳文)

広州湾ニ於テ仏國官憲ニ逮捕セラントタル支那革命
黨員ノ為ニ在日孫逸仙ノナセル所謂交渉ニ閻スル
件

革命的陰謀ノ嫌疑アル支那人數名広州湾ニ於テ逮捕セラ
タル處右支那人ヲ裁判權ノ恩惠ニ蒙せセル孫逸仙署名ノ東
京

二 中国革命党關係者ノ動静ニ關スル件 三〇四 三〇五

二六四

京發電報ニ通去十一月末及十二月五日印度支那總督ノ下ニ到達セリ

總督ハ直ニ當館ニ向テ出来得ヘクハ孫逸仙ガ果シテ前記二通ノ電報ノ発送者ナルヤヲ確メタル上若シ事實ナラハ同人ガ犯人ノ為メニ交渉セル理由取調方ヲ依頼シ来レリ
依テ當館ハ内務省ニ非公式ニ照会シタル處當該官憲ニ於テ調查ノ結果ニ依レハ孫逸省ノ吉田氏ヲ指定シ同氏コソ本件ノ調査ヲ満足ニ遂行スルニ適スヘシトノコトナリシモ同氏ハ結局東京ニ於ケル孫逸仙ノ宿所ヲ當館ニ知ラシムルニ過キサリキ

千九百十五年一月四日東京ニ於テ

仏國大使署名

三〇四 一月十三日 在本邦仏國大使館宛

廣州湾ニ於テ仏國官憲ニ逮捕サレタル中國革
命黨員ノ為孫逸仙ヨリ印度支那總督宛發電二
閥シ回答ノ件

機密

覚書

帝国外務省ハ在本邦仏國大使ヨリ一月日附四書面ヲ以テ松

中國亡命者戴天仇ノ談話ニ關スル件
乙秘第四三五号
(三月二日接受)

大正四年三月一日

支那亡命者戴天仇ハ在京革命黨員ト支那公使館トノ關係ニ就キ大要左ノ如ク語レリ

一、日文交渉問題發生以來支那留学生等ガ盲動ヲ敢テスルニ至リシハ革命党ガ裡面ニ伏在シ之レヲ煽動シ居レルニ依レリト支那公使館側ニ於テハ專ラ流言シ居レル模様ナルガ元ヨリ多數ノ革命黨員中ニハ彼等学生ノ盲動ノ渦中ニ投シ居ル者アル哉知レズ否ナ現ニ投シ居ル者アル様聞キ及び居レトモ是等ハ個人トシテ各見ル處ヲ異ニシ居ルト又一ハ或ル利益ノ為メニ運動シ居ルニ過キズ之等ハ同シク黨員中ニテモ末派ノ輩ニシテ決シテ革命党トシテハレニ加担シ居ルニアラズ公使館側ヨリ如斯説ヲ流布スルハ革命党ニ惡名ヲ負ハサンガ為メニシテ革命党トシテハ甚ダ迷惑ノ次第ナリ又タ支那内地ノ各新聞ヲ見ルモ同様今回ノ日文交渉問題ニハ裡面ニ革命党が潜在シ居レリト何レモ筆ヲ揃ヒテ称道シ吾々同志ヲ呼ブニ壳国党トノ名ヲ以テシ居レルガ之レハ袁總統ノ手段ニシテ革命党ノ名

三〇六

二六五

井外務次官ニ對シ廣州湾ニ於テ仏國官憲ノ為メ逮捕セラレタル支那革命黨員ニ付孫逸仙ヨリ電報ヲ發シタル件ニ關シ照会ニ接シタル處當該官憲ニ於テ調查ノ結果ニ依レハ孫逸

仙ヨリ前記仏國大使書面記載ノ如キ電報ヲ發シタル件ニフハ事實ナルカ如キモ同人カスル処置ヲ為スニ至リタル理由ハ到底之ヲ調查スルノ方法ナキヲ以テ乍遺憾之ヲ知ルニ由ナシ尚帝国外務省ハ本件ニ關シ特ニ何等措置ヲ執ルノ意向ヲ有セサルコトヲ茲ニ併セテ在本邦仏國大使館ニ通知スルノ光榮ヲ有ス

三〇五 三月一日 安河内警保局長宛(電報)
中國亡命者何海鳴上海ヘ向ケ出帆ノ件

(三月二日接受)

支那亡命者何海鳴ハ横浜解纜ノ汽船ニ乗リ組ミ支那上海ニ向ケ出発セシ趣ニテ客月二十六日頃神戸港ニ寄港中當地在留支那人林俊隊ナルモノト會見シ今回袁政府ト妥協シ支那ニ於テ任官スヘキ目的ナリト語リ居タル趣

三〇六 三月一日 外務省宛

ヲ傷ケ以テ國民ノ心ヲ革命党ヨリ離散セシメンガ為メノ策ニ出デ居ルコトハ明カナリ
又支那公使館ハ日文交渉問題發生以來本問題ヲ利用シ革命党ヲ攬乱センガ為メ種々ノ惡辣手段ヲ弄シ居レルガ之内最モ巧妙ヲ極メ居レルハ目下母國ハ危急存亡ノ際ニテ國民タル者内政ニ就キ互ニ反目シ居ル秋ニアラズ挙国一致以テ外政ニ当ラサルベカラサル時ナレバ一致以テ先づ外交ノ終末ヲ告ゲ然ル後内政ノ改革ニ着手スル事トナシ此際ハ主義政見ノ異同ヲ問ハズ國家ノタメ挙国一致外難ニ当ラサル可カラズト至極尤モラシク説キ且ツ啗ラハスニ金錢ヲ以テシ居レリ之レガ為メ吾々同志中ニテ目下生計不如意ノ者ノ中ニハ既ニ買収サレ又ハ買収サレツツアル者モ多少アル模様ナルガ之等ハ多クハ黨員中二、三流以下ノ者ナレトモ中ニハ黨員中ニテ多少重キヲ置カレ居タル何海鳴、張堯卿ノ如キモ既ニ此ノ手ニ陥リシガ最モ張ハ從前ヨリ袁政府ヨリ買収サレ居タリトノ説アリテ吾々同志間ノ注意人物ナリシガ何海鳴モ遂ニ張ニ説カレ過日來兩三回張ト共ニ窃カニ陸公使ト會見ヲナシタル形跡アリテ注意中ナリシガ兩三日前突然帰国セシが畢竟生計

二 中国革命党關係者ノ動靜ニ関スル件 三〇七

不如意ノ結果ナラント思ハル吾々同志中ニテ袁政府ヨリ

買収サレ窃カニ同志ノ買収ニ奔走シ居ル者モ多少アルナ

ランガ前記ノ張堯卿ハ其重ナル者ナラント思ハル

又タ余等ノ平素知リ居リタル同志ノ中ニテモ或ル二三ノ

者ハ買収サレ既ニ帰国シタル者モ有之此等ハ帰国ニ際シ

余等ニ対シ生計困難ノ結果買収セラルニ至リタル内情

ヲ告ケ且ツ帰国ノ上縦令如何ナル事業ニ從事スルトモ革

命運動ノ為メニハ間接ニ援助ヲナス旨ヲ誓約シテ帰国セ

リ

又タ數日前在長崎ナル同志柏文蔚外十二、三名ノ者連署

ニテ在京ノ吾々同志十数名ニ宛テ目下革命党ノ名ヲ傷ケ

ンガ為メ党员ノ身上ニ就キ種々ノ蜚語ヲ放チ離間中傷ヲ

ナサンントノ策ヲ施シ居ル者アレバ吾々ノ身上ニ就キ如何

ナル風説アルヤモ知レサレトモ吾々ノ意志ハ牢固トシテ

動カザレバ決シテ耳ヲ傾クル勿レト云フ意味ノ書面参り

タレバ吾々モ又タ連名ニテ同意味ノ返書ヲ発シ置キタリ

以上ノ次第ニテ目下袁派ニ於テ日支交渉問題ヲ利用シ革

命党ヲ攬乱センガタヌ種々ノ惡辣手段ヲ弄シ居レバ吾々

同志モ警戒ヲ加ヘ居レリ

二六六

過般某新聞ノ記事ニ見エ居タル金邦平ハ先年余ガ東京ニ

留学中金モ同シク留学シ當時留学生中ニ於テハ先輩ニシ

テ早稻田大学ノ出身者ナルガ本人ハ先天的官僚系ノ人物

ニシテ非常ナル策士ナルガ彼レガ今回突然ノ渡来ハ決シ

テ無意味ニハアラズ必スヤ何事カ袁ノ命ヲ帶ヒ居ルナラ

ント確信セラル云々

三〇七 三月二日 大久保大阪府知事ヨリ
大浦内務、加藤外務兩大臣外宛

在留中国人ノ動靜ニ關シ報告ノ件

特秘第一五六号

大正四年三月二日

大阪府知事 大久保利武

内外相、警視總監、神奈川

兵庫、長崎県知事殿

在留支那人ノ動靜ニ關スル件

客月二十五日附甲秘第一一五号警視（貴）府通報ニ係ル支

那亡命者何海鳴ニ関シ同人ハ横浜解纜ノ汽船ニテ支那上海

ニ向ケ渡航セシ旨昨一日内務省警保局長ヘ打電通報致置候

處其ノ事実ヲ確カムルニ其ノ妻何雪均弟何葵井ニ妻ノ父陶

保安ノ三名ハ横浜解纜ノ汽船筑前丸ニ乗シテ西下シ何海鳴

ハ單身鉄路長崎ニ向ヒ同地ニ於テ前記家族ト同船シテ支那

上海ニ向ケ帰国セシ趣ニ有之途中客月二十七日神戸駅ニ於

テ当地在住ノ支那人林春泰ニ會見セシカ其ノ際何ノ談ニ依

レハ今回袁政府ヨリ在京支那公使ヲ経テ一般亡命者ニ論達

アリ其ノ結果之ト妥協シ總テ本国ニ引揚ケ仕官スヘキ筈ナ

ルカ劉藝舟等モ不日帰國ノ途ニ就クヘク又出發二三日前孫

文ニモ会見セシカ同人ハ未タ帰國ノ準備整ハサル模様ナリ

シトノコトニ有之候

當地在留ノ一般支那人ハ日支交渉問題ニ關シ本国新聞ノ煽

動的記事ニ対シ批難ヲ加フルカ如キ者アリテ表面鎮靜ヲ持

シ居レルカ如キモ客月十四日（陰曆元旦）約百名ノ商人大

阪市西区本田二番町中華民國商務總会ニ會合ノ際左記要領

ノ談話ヲ為ス者アリタリト云フ

支那ハ弱國ナリト雖一旦干戈ヲ交ヘ其ノ結果ニ非サレ

ハ日本ノ要求ヲ認容スヘカラス

又吾人商人ニ於テ極力同盟不賈ヲ實行スルニ於テハ祖

國ハ戰ハスシテ勝利ヲ得ヘシ云々

目下貿易ニ關シテハ著シキ変化ヲ見サルモ万ニモ本国ニ

一大 中国革命党關係者ノ動靜ニ關スル件 三〇八

三〇八 三月五日 李家長崎縣知事ヨリ
大浦内務加藤外務兩大臣外宛

中国亡命者ノ會合ニ關シ報告ノ件

（三月八日接受）

大正四年三月五日

長崎縣知事 李家隆介

内務大臣子爵 大浦兼武殿

二 中国革命党関係者ノ動静ニ閲スル件 三〇九

外務大臣男爵 加藤高明殿

警視総監殿

去三月一日当地滯在中ノ支那亡命者柏文蔚外三四名ト日本

人原口聞一、西郷四郎等市内廣馬場町四海樓ニ於テ会飲シ

尚引続キ丸山町料理屋杉本屋ニ至リ再ヒ会飲シタル事実ア

リ内債スルニ曾テ原口聞一カ陳子玉ヨリ招待セラレタル返

礼トシテ為シタル宴会ナリシ趣ナリ席上ノ談話中平素譚人

鳳力意見トシテ現下ノ日本政府ノ状態ニ鑑ミ到底第三次革

命ヲ計画スルハ不能ニ付潔ク南洋方面ニ航シ再挙ヲ図ラン

ト主張セシコトアリシモ柏文蔚陳子玉等ハ全然其意見ヲ遮

リ日本ヲ去リテ事ヲナスハ不可ナルノミナラス各所ニ起ラ

ントセシ第三革命モ悉ク失敗ニ了レル今日急クヘキ時ニア

ラス宜シク当地ニ止マリ時機ノ到ルヲ待ツヘント譚人鳳ニ

忠告シ其ノ結果トシテ譚モ当地ニ永住シ亡命者連ハ相互ニ

相扶ケテ生活スヘク又将来事成ルノ期至ラサレハ日本ニ帰

化スルモ已ムナカラントテ彼等ノ連中ニ於テハ既ニ意見一

致セシコトノ談アリシ趣ナリ

又日支交渉事件ニ就テハ此等ノ亡命者連ハ新聞紙ノ所報ヲ

信セス決シテ日本ニシテ無理非道ナル要求ヲナササルコト

大正四年三月九日

目下在京中ナル孫文一派ノ革命党員ニ対シ過日中華民国々
民全體ヨリトシテ目下時局紛糾國家存亡ノ岐ルル秋ニ際シ

居レバ革命ト称スルガ如ク一国内之事ニ就キ国民ガ互ニ相

争ヒ居ル時ニアラズ挙国一致以テ外難ニ当ラサル可カラズ

元來今回ノ如ク民国ガ他ヨリ圧迫ヲ受クルニ至リシハ革命

党員ガ祖国ヲ去リ外国ニ散在シ居ルヲ以テナレバ此際帰国

シ挙国一致ノ実ヲ挙ゲ國家ノ為メ外難ニ當ラレタシ云々ト

ノ意味ヲ支那ヨリ送付シ来レリト云フ

在京中ノ革命党員ガ袁派ノ為メ目下熾ニ懷柔サレツツ有ル

趣ハ既報スル処アリシガ先日何海鳴ガ陸公使ノ手ニ依リ懷

柔サレタル際同人ノ外約五十名位ノ者同公使ニ帰順ノ旨ヲ

申出タル者アリタル由ナルガ内二十名ノ者ニ対シテハ同公

使ハ許否ヲ与ヘズ（名モナキ雜輩ナリシヲ以テナリト）帰

国ト否トハ本人等ノ自由ニ委セタリト云フ

先日來孫文ノ許ニ在京中ナル革命党員ニシテ脱党ヲ申出デ

其理由書ヲ呈出シ来ル者多数アル趣ニテ数日前ノ如キハ一

日ニ七、八名モ有之タル趣ナルガ孫ハ之レニ対シ意志薄弱

ナル者ハ仮令幾百万人アルモ少シモ頼ムニ足ラズトテ其

二六八

ハ疑フ所ナシトテ頗ル樂觀シ居タリシト云フ

会合者ノ重ナル者ハ左ノ如シ

右及申（通）報候也

左記

柏文蔚
陳子玉
劉領新

潘鼎新
季雨霖

（本人ノ身分住所明カ）
（ナラス自下調査中）

西郷四郎
原口聞一

西彼杵郡細田村
（元泰天民團長）

西郷四郎
原口聞一

以上
追テ杉本屋登樓ノ際ハ陳子玉潘鼎新ハ同行セス東洋日の

出新聞社細島熊次郎新ニ参加シ居タリ為念申添候

三〇九 三月九日 警視総監（タリシト云フ）

袁世凱派ノ在邦革命党員懷柔ニ閲スル件

乙秘第五〇八号 外務省宛
（三月十日接受）

自由ニ任セ置キ毫モ意ニ介シ居ラズト云フ

三一〇 三月九日 李家長長崎県知事ヨリ
大浦兼武殿 外務大臣男爵 加藤高明殿

張劉等中國亡命者帰國ニ際シ談話ノ要点報告

ノ件

高秘特收第四九九号

大正四年三月九日

長崎県知事 李家隆介

内務大臣子爵 大浦兼武殿
外務大臣男爵 加藤高明殿

神奈川、兵庫、大阪
京都、山口、福岡、

佐賀ノ各府県知事殿

支那人帰國ニ閲スル件

支那亡命者

張堯卿 三十六年
劉藝舟 三十三年

外ニ妻及小兒一名同伴

二 中國革命党関係者ノ動靜ニ閲スル件 三一〇

二六九

劉藝舟一行

亡命者 雷 洪 二十四年	謝 穎 二十六年
" 蔣吉士 三十二年	" 李統求 二十七年
" 劉 嘯 二十三年	

右一行九名ハ七日神戸出帆ノ竹島丸ニテ天津行トシテ乗船八日門司上陸当地ニ向ヒ張ハ佐賀県ノ尾行引繼ヲ受ケ同日午後五時十分着列車ニテ當地ニ來リ廣馬場町綺南樓ヘ他ノ八名ハ午後十一時四分着列車ニテ來着四海樓ヘ投シ一同三月九日午前十時再ヒ竹島丸ニ乘込ミ同日午後三時天津ニ向ケ出発シタリ

張及劉藝舟ハ何レモ袁派ニ買収セラレタルモノノ如ク噂セ

ラルルヲ以テ其行動ニ就テハ特ニ注意スル所アリシモ別段記スヘキ事項ナシ但同人等カ往訪者ニ対シ為シタル談話ノ要點ヲ御参考迄左ニ記載致置候

一今回我々一行ノ天津旅行ノ目的ハ表面演劇興業ニアルモ其表現下ノ日支交渉問題ヲ利用シ從来甚シク疎隔セラレタル亡命者ト袁政府トノ間ヲシテ出来得ル限り円満ナラ

シメントノ希望ヲ抱キ其機会ヲ窺フテ渡航スルモノナルモ是等ハ到底成功シ得ヘキ見当立タス兎ニ角交渉結了ニ至ルマテノ間天津ニ止マリ興行ヲ以テ生計スル考ナリ袁派ニ買収セラレタル如ク記載スルモノアルモ決シテ然ルコトナシ我々カ始終革命党ト一致スルモノナルコトハ孫逸仙ヲ初メ譚人鳳、柏文蔚ノ如キ首領連ハ能ク之ヲ知ル所ニシテ一般亡命者ノ疑ヒモ後日解クルノ時アルヘシ故ニ革命成功ノ曉ニハ孫其他ノ領首連ハ我々ノ今日蒙リタル冤罪ヲ明カニスル責任アリ又必ス為スヘキコトヲ信ス然レトモ日本ノ新聞紙カ此ノ如ク記載スルニハ必ス始メハ支那人ノ口ヨリ洩レタルモノナルコトハ疑ハサルナリ

一何海鳴ノ如キモ決シテ金錢ノ為ニ節ヲ壳ルモノニアラス彼ハ三月二日ノ筑前丸ニテ上海ニ渡航シタル筈ナリ彼方ニ入りタリ多分譚人鳳西下ノ時同行シ來リシコトト信スルモ譚ノ来崎カ筑前丸出帆後ナリセハ或ヒ単獨來リシナラン目下何ハ上海ノ新聞社ニアル筈ナリ先刻神戸在

住ノ劉騏ヨリ我々ニ電報來レルカ其文面ニ依レハ「上海」「リヤンイ」ヨリ電報來ル「カクン」長崎ニ寄ツタトキ「リン」危険ナリシ「チャーン」「リュウ」貴地ヨリ外國船ニ乗替ヘ上海ニ廻レトアリ是等ハ何海鳴ノ談ヨリ我等ニ注意ヲ与ヘシモノト察セラル但シ我々一行ハ之ニ閑セス予定通天津ニ赴クヘシ云々

一季雨霖ノ上海渡航ノコトモ已ニ知レリ昨夜投宿後譚ニモ窃カニ面会シ委細ヲ聞ケリ（注昨八日夜譚人鳳外二三ノ者ハ張ノ宿所タリシ綺南樓ニ於テ会飲シタル事實アリ或ハ面会云々ハ事實カトモ認メラル）

一日支交渉問題ニ付キ支那商人力「ボイコット」云々ヲ口ニスルハ甚ダ宜シカラス又日本新聞カ最後ノ手段ハ干戈ニアルカ如ク記載スルハ是亦宜シカラサルナリ宜シク双方トモ穩當ノ間ニ交渉ヲ結了セサル可ラス

一在日本支那留学生カ続々帰國スルハ日支交渉問題ノ為メ

ナルヘキモ此等ハ我々亡命者トハ全ク別交渉ナリ彼等ノ帰國ノ如キ何等取ルニ足ラサルナリ

一袁世凱ノ股肱金邦平カ亡命者ヲ懷ケントテ日本ニ來リシ由ヲ新聞紙ニ記載セルモ彼ノ來リシハ全ク日支交渉問題

附屬書 右同盟案

三一 三月十四日 孫文（在東京）ヨリ

日中同盟案内示ニ關スル件

大正四年三月十四日

孫文

小池張造殿

謹啓

閣下益々御勇健大慶至極ニ奉存上候

現下ノ時局ニ対シ不肖年来ノ持論及主張ヨリ默視シ難キモノ

ノアリ不敏ヲ顧ズ茲一書ヲ呈シ敢テ聰明ナル閣下ノ御考慮

ヲ相煩シ度候

曩日貴国政府ヨリ弊国政府ニ対シ御提出相成タル所謂日支交渉事件ナル者ノ詳細ナル内容素ヨリ窺ヒ知ル能ハザル所ナリト雖モ要スルニ日支ノ親善ト東亞ノ平和ヲ目的トセラルモノタルヤ論ナシ此ノ点ニ於テハ不肖ノ唱導主張ト一致シ歡喜措ク能ハザル所ナリ然リト雖モ此レガ目的貫徹ニ關スル手段方法ニ至リテハ聊カ失望落胆セザル可カラザルモノアリ誠ニ焦慮ニ堪ヘザル所ナリトス抑モ東亞ノ平和ヲ期セントセバ真正ナル日支提携ヲナスニ非ラザルヨリハ決シテ他ニ途アルナシ故ニ確固タル日支提携ノ成立ヲ見ザル限リ弊国ノ安全ナル存立ハ望ミ難キト同時ニ貴国モ亦絶対安全ノ位地ニ在リト言フヲ得ベカラザルナリ然ルニ交渉事件ニ関シテハ之ノ真正ナル提携問題ヲ度外トスル誠意ナキ弊国政府ノ当局ニ対シ終始一貫強制的交渉ヲ続行セラレン

トスルノ傾向顯著ナルモノアルヤニ察セラレ候ハ荏苒日ヲ曠シクシテ今日ニ至レル悲ムベキ事実ニ微シテ明白ナリトス之レ吾人ガ最終ノ目的トスル所以ノ途ニアラズト

ノ手段ニシテ不肖等ノ遺憾至極トスル所ニ有之候夫レ源泉濁ラバ末流清カラザルハ理ノ正ニ然カラシムル所ナリ溷濁セル弊国政府ノ源泉ヲ清メズシテ未流ノ澄ヲ求メントスルハ決シテ最終ノ目的ヲ達スル所以ノ途ニアラズト存候此点ニ於テ貴国今度ノ外交ハ既ニ其第一歩ニ於テ此ノ不幸ナル撞着ニ遭逢セラレタルモノニシテ仮令今回ノ交渉ニ依ツテ貴国ノ為メ多少獲ル所可有之モ却テ之レガ因ヲナシ益日支ノ疎隔ヲ亘ニシテ其悪影響ノ将来ニ及ボス損失ノ甚大ナルモノアルベキハ不肖ノ信シテ疑ハザル所ニシテ東亞永遠ノ平和ノ為メ悲ムベキ次第ト愚考仕候モ最早今日トナリテハ此言ヲナスモ其甲斐渺シト雖モ畢竟茲ニ至レルハ奸讒極リナキ弊国現政府ノ首脳ヲ過信シテ現在ノ支那ヲ救濟シ得ルモノトシテ貴国政府ガ進メラレタルアラザルナキ乎斯ノ如シテセバ東亞ノ盟主タル自任ニ欠クル所アリト言フニ帰着シ不肖等ノ意外トスル所ニシテ真ニ自失セザル可カラザルナリ不肖等ハ常ニ東亞ノ安全ト福利トハ日支提携

外交事件ハ先ツ相通知協定スルコト

第二条 日中協同作戦ヲ便ナラシムル為メ中華ノ陸海軍ニ使用スル兵器弾薬兵具等ハ凡テ日本ト同式ノモノヲ採用スルコト

第三条 前項ト同一ノ目的ヲ以テ中華陸海軍ニ外國軍人ヲ聘用スルトキハ主トシテ日本軍人ヲ採用スルコト

第四条 日中政治上ノ提携ヲ確実ナラシムル為メ中華中央政府及地方官庁ニ外國人ヲ聘用スルトキハ主トシテ日本人民ヲ採用スルコト

第五条 日中經濟上ノ協同發達ヲ期スルタメ中日銀行及其支部ヲ日華重要ノ都市ニ設立スルコト

第六条 前項ト同一ノ目的ヲ以テ中華ニ於ケル鉱山鐵道及沿岸航路等ヲ經營スル為メ外國資本ヲ要シ又ハ合弁ノ場合ハ先ツ日本ニ協議スベシ若シ日本ニ於テ弁シ能ハザルトキハ他外國ト協議スルコト

第七条 日本ハ中華ノ弊政改良ノタメ必要ナル援助ヲ与ヘ之ガ成功ヲ速カナラシムルコト

第八条 日本ハ中華ノ内政ノ改良軍備ノ整頓ヲ助ケ健全ナ

日本及中華ハ東亞永遠ノ福利ヲ維持スル為メ両国提携ノ必要ヲ認ムルヲ以テ茲ニ左ノ如ク約定ス

第一条 日中両国提携シテ他外國ノ東亞ニ対スル重要ナル

(附属書)

盟約案

日本及中華ハ東亞永遠ノ福利ヲ維持スル為メ両国提携ノ必

要ヲ認ムルヲ以テ茲ニ左ノ如ク約定ス

第一条 日中両国提携シテ他外國ノ東亞ニ対スル重要ナル

(欄外註記)

「大正四年三月十四日王統一持參」

(欄外註記)

</

一 中国革命党関係者ノ勤静ニ閑スル件 三一二 三一三

二七四

第九条 日本ハ中華ノ條約改正関税独立及領事裁判権撤廃等ノ事業ヲ贊助スルコト

第十条 前各項ノ範囲ニ属スル約定ハ両国外交当局者或ハ

本盟約記名者タル両国人ノ認諾ヲ経ズシテ他ノ者ト締結セザルコト

第十二条 本盟約ハ調印ノ日ヨリ向フ十カ年間効力ヲ有スルモノトス更ラニ両国ノ希望ニ依リ延期スルコトヲ得

因ニ前記盟約案吾人ノ私案ニ有之候間決シテ御公表無之様特ニ奉願上候

三一二 三月十五日

外務省宛

日中交渉問題並袁政府ノ革命党員買収ニ閑シ

陳其美談話ノ件

乙秘第五五六号

(三月十六日接受)

大正四年三月十五日

支那革命党首領陳其美ハ或者ニ対シ日支交渉問題及其他ニ就キ左ノ如ク語レリト云フ

日支交渉問題ハ單ニ國家ト言フ上ヨリ見ル時ハ反対セサ

ルヲ得サルモ現今世界ノ大勢ヨリ観察セバ強テ反対ス可

三一三 三月十五日

在天津松平總領事ヨリ
加藤外務大臣宛

本邦ニ亡命中ナリシ革命党員張堯卿一行天津

到着ニ閑シ報告ノ件

機密第二二号

(三月二十三日接受)

大正四年三月十五日

在外大臣男爵 加藤高明殿

総領事 松 平 恒 雄(印)

在天津

前年第二革命ニ於テ失敗以来本邦ニ亡命シ居タル張堯卿劉

藝舟等ノ一行本月十二日太沽着ノ竹島丸ニテ来津スヘキ旨
當時天津警察庁ニテ承知シ居リ同庁ニテハ同一行ノ上陸ヲ
待チ直チニ之ヲ逮捕セントシタル計画モアリタル模様ナリ
シモ協議ノ末之ヲ逮捕セズ厳重ニ監視スルコトニ決定シタ
ル旨情報ニ接シ居タル處同一行ハ前記ノ通り十二日竹島丸
ニテ左記九名着津直チニ日本租界德義樓ニ投宿致候

元南京都督 張 堯 卿

急進派首領 劉 藝 舟

東北司令 李 統 球

劉 道 衡

謝 稔

雷 洪

外ニ劉藝舟ノ妻及子供一人

計九名

同人等今回ノ來津ニ就テハ或ハ時局ノ紛糾セル機会ニ乘シ
何等力革命ニ闘シ事ヲ挙ケントノ計画ニ非スヤ又ハ此際袁
政府ト革命党トノ連絡ヲ結ビ付ケ日本ニ當ラントノ計画ニ
テモアルニ非スヤト懸念モ有之候条當方ニ於テモ充分注意

致居候處天津警察庁ニ於テハ一方不尠其行動ヲ注意致居候
ト同時ニ一方之ヲ款待シ同府長揚以徳始メ勤務警察長丁振
之劉孟揚及行政科長邊守靖ノ如キ同府幹部員ハ立交リ之ヲ
往訪シ殊ニ劉孟揚ノ如キハ饗応ノ宴ヲ開キタルコトアリタ
ルモ相互ニ警戒ヲ為シ居タル模様ニ有之將又同一行ノ我警
察署員ニ対シ語ル處ニ依レバ今回來津ノ理由ハ現下ノ時局
ニ対シ彼我国民間ニ於テ各其政府ノ真意ヲ解セス徒ラニ騒
キ立テ日本ニ於ケル支那留学生間ニハ排日的会合ヲ為シ代
表者ラシテ遊説ノ為メ帰郷セシメタル等ノコトアリ此儘ニ
放任スル時ハ彼我ノ交渉進捗ニ不尠妨害アルヲ以テ駐日陸
公使ト協議シ帰國ノ上支那国民ノ沸騰ヲ鎮靜セシムルノ目
的ニテ公使ハ支那政府トモ協議シ其同意ヲ得タルヲ以テ來
津シタル由語リ居候得共其上京ニ閑シテハ天津警察庁ニ於
テモ注意ヲ為シ居ルト同時に同人等ニ於テモ甚敷注意ヲ払
ヒ現政府ノ意向ヲ探リ居タル模様ニ有之候處前清農商工部
大臣劉揆一両者ノ間ヲ斡旋スル處アリ大總統ノ内意モ確メ
得タル由ニテ今十五日午前当地発一行全部上京致候尚同人
等当地滯在中ハ極メテ緘默ヲ守リ挙動其他何等注意ヲ惹ク
様ノ行為無之候

二 中国革命党關係者ノ動静ニ関スル件 三一四

右御参考迄及報告候 敬具

本信写送付先 日置公使

三一四 四月八日 在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛

在本邦中国革命党取締方ニ関シ外交部ヨリ申

出ノ件

附属書 在本邦中国革命党取締方ニ関スル外交部節略

機密第一〇二号 (四月十四日接受)

大正四年四月八日

在支那

特命全権公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

革命党取締方ニ関シ本月五日附ヲ以テ大總統申令發布ノ次第ハ本月六日附公第六一号ヲ以テ及報告置候處昨六日外交部ヨリ部員ヲ當館ニ遣シ在本邦革命党取締方ニ付別紙写ノ通覚書ヲ以テ申出テ同時ニ目下本邦ニ在ル肅親王ノ子モ本邦浪人ト氣脈ヲ通シ何等画策ヲナシ居ル旨報道ニ接シタルニ付是又相當取締アリタキ旨申添候革命党取締ノ件ハ今回ノ対支交渉トモ關係アル處目下談判進行中ノ際在本邦革命

写 節略

本国政府據興武將軍朱瑞電呈迭接探報孫文在海外派定偽職携款分赴沿江沿海各省乘中日談判時機圖謀擾亂並借國民公憤名義故與外人爲難冀釀重大交渉等因經飭屬在寧波嘉興等處偵破亂黨機關獲犯薛常火何賢能周鼎臣程訓頤等起出誓約志願書並僞委任狀暨據各犯供詞與探報各情若合符節業經訊明先後槍斃等語本國政府查亂黨希圖擾亂治安既經浙省地方官查有確據自屬罪無可逭本月五日業由本國大總統明發命令嚴加防緝以遏亂萌惟查朱將軍呈內所開之亂黨重要人犯現均寄跡貴國該犯等蓄意陰謀圖亂於本國治安甚有干係相應備具節畧達知

貴公使轉達

貴國政府特加注意爲荷

在本邦中国革命党及宗社党员ノ動静ニ関スル件

政機密送第七一号

在本邦亡命支那人ノ動静ニ關シテハ客年一月三十一日附政機密送第二三号等ヲ以テ屢次及通報置候處今般四月八日附機密第一〇二号貴信末段ヲ以テ最近ニ於ケル重ナル革命党及宗社党员ノ動静通報方御申越有之候ニ付其後ニ於ケル是等支那人ノ動静左記ノ通り及内報候間御查閱相成度此段申進候也

左 記

陳其美 本年三月中上海ニ向ヒタル形跡アリ

林虎 昨年六月新嘉坡ヨリ再ヒ本邦ニ來リタルカ最

乱ヲ希図シ浙江省地方官ノ調査確証アリ罪ノ道ルヘキナシ業ニ本月五日本國大總統ハ命令ヲ公布シ嚴重ニ防緝ヲ加ヘ

乱崩ヲ遇ヌシム惟々查スルニ朱將軍報告内記ノ乱党重要

犯人ハ現ニ均シク貴国ニ寄位シ該犯等意ヲ蓄ヘ陰謀ノ乱ヲ

謀ル本國ノ治安ニ於テ甚々關係アリ茲ニ覺書ヲ以テ貴公使

ヨリ貴國政府ニ転知シテ特ニ注意ヲ加ヘラレンコトヲ乞フ

季雨霖 本年三月四日上海ニ向ヒ本邦ヲ去レリ尚同地

ヨリ南洋ニ赴ク由

三一五 四月二十三日 加藤外務大臣ヨリ

在中国日置公使宛

三一五

二七六

党ニ於テ何等カノ企画ヲナスカ如キコトアリテハ徒ニ時局ヲ紛糾セシムル次第ニ付申迄モナキ義ナカラ十分御取締相成候様致度尚最近ニ於ケル重ナル革命党及宗社党员ノ動静本使参考迄ニ御通報相煩度右申進候也

(附属書)

二 中国革命党關係者ノ動静ニ関スル件 三一五

二七七

柏文蔚　亡命以来引続キ本邦ニ在ルモ近ク南洋ニ赴カ

ントスル計画アリトノ説アリ

方聲濤

曩ニ上海ニ赴キタルカ其ノ後再ヒ本邦ニ来レ

リ

升允　一昨年以來引続キ東京ニ在リ

憲徳（肅親王ノ第二子）本年二月中本邦ニ來リ目下東

京府下川島浪速方ニ在リ

其他李烈鈞張繼等曩ニ本邦ヲ去リタルモノヲ除キ孫逸仙始
メ重ナルモノ尚引続キ本邦ニ在リ何等特異ノ行動ヲ認メズ

三一六　四月二十六日

警視庁ヨリ
外務省宛

在本邦中国革命党員ノ印刷物配布ニ關シ報告

ノ件

乙秘第七六〇号

（四月二十六日接受）

大正四年四月二十六日

印刷物配布ノ件

支那革命党員黃實（陳其美ノ秘書ニシテ目下其留守宅ヲ管理シ居ル者）ハ數日前ヨリ別紙印刷物ヲ支那内地及新嘉坡、桑港方面ニ散在スル同国人ノ許ニ發送シ當地ハ同党員夏重民ノ手ヲ經テ配布セシメツツアリト云フ

（別紙）写
日前關於中日交渉問題已由　通告海内外茲更將此事顛末爲我同志詳言之

（一）日本之要求。實由袁氏啓之。袁以有賀長雄青柳篤恒之關係。與大隈重信私交極密。人所知也。大隈既爲首相。袁乃斷。於是由于元老指示機宜。提出各種條件。向中國要求。蓋日人自高麗事件以來。素惡袁氏。袁欲帝中國。而求日本。適啓其蔑視之心。且慮袁之狡猾。一旦得志。將更利用他國而持日本之短長。故爲種々要求。作將來之保障。日置公使第一次見袁。即曰「日本國上下。素疑總統爲排日者流。若此度要求。能予通過。始可證其非是」即此寥寥數語而日本實有爲而發。使袁與日本政府無秘密之結託。則日置公使必不能唐突而爲此言。其曰日本上下見疑。亦聊示其非大隈內閣之本意也。袁氏初恃大隈私交。以爲目的易達。而不虞元老之主張。足以左右內閣。提出交涉。視爲相當之報酬。傳曰。有求於人。必先下之。況袁爲其私。豈知國家之利害。故喪權賣國。袁氏之罪。百死莫贖。論者徒以內治不綱。爲惹起外患之原因。猶未明此事之真相也。

（二）交渉之狀態。與袁氏之詐僞。交渉既來。袁氏知不能拒絕。則欲密爲承認。故湯化龍以御用黨之領袖。廁身國務大臣。思有所關白。而袁冷語斥之。迨外報偵得其內容。條件宣佈。輿論譁然。卽官僚派人。亦多極力反對。袁於是乃不得不有所躊躇。則故與日人遷延談判。此固溝清以來外交上之慣態。而袁氏尤有深意於其間。倘訴之一國公論。破烈談判。袁之所不肯爲也。而輿論激烈。亦企以稍得減輕其條件。非爲國也。避外交上大失敗之名也。卽其機關報。亦逢迎時論。而日肆抨擊。若曰非袁之所欲。亦掩其與日人密相結託之迹也。遷延復遷延。則日人必增加其強硬之態度。然後承認通過。更示人以國力之無可如何。斯必有相諒其無他者。爲陰爲陽。幾令人不可捉摸。袁之自爲計。亦至工矣。

（三）袁氏嫁禍於黨人。袁以掩耳盜鈴之術遇弄國人。同時捏造謠言。嫁禍於革黨。謂革黨已與日人有密約矣。日人先以兵力助革黨矣。此次要求。日人實革黨與俱。以此搖惑國人之視聽。以爲痛心外交者。必將嫉視革黨。其計尤毒。然事有淺而易見者。則使日人果與革黨爲密約相助。則已視袁氏如寄生物。一切要求。自可向革黨爲之。何必更與袁氏爲無謂之交涉。而況其條件開列中。有代平內亂之一節耶。袁欲爲

初無所用其隱諱。而謬者乃引石敬塘吳三桂故事爲比。此真

擬於不倫。橫相誇讐。他不具論。試問石吳二賊。寧有可冒革命黨之資格耶。惟求助外人。僭帝中國。則袁世凱不啻石敬塘之後身。至契丹愚而日本智。故敬塘不免臣兒皇帝之稱。而袁氏且將以中國爲第二高麗之續。石袁二氏。正未易判其優劣也。更證之各國。爲革命而得外人之助力者。其國昌。爲政府而求助外國而摧壓革命者。其國亡。希臘之革命。得英人之助。西班牙之革命。亦得英人之助。美利堅之革命。得法人之助。意大利之革命。亦得法人之助。此前一例也。埃及政府求助英國而鋤國民黨。埃及遂不國。高麗政府求助日本而平東學黨。高麗復亡。此後一例也。蓋革命者。國民眞精神之發現。本此精神爲立國之根本。未有能勝之者。故能受助於人。而不爲人所利用。政府而求助於他國。則已生倚賴而失其獨立之性。更摧殘其民黨。消失愛國之精神。故他國得而陵之。二者之得失。判然兩途。不可易也。天下事不知來者視諸往。吾黨於此。惟有堅其革命之志趣。毋自餒而已。

故吾黨遇此次交渉。依然持我目的。猛厲進行。絲毫無所搖動。知袁氏爲賣國之罪魁。則討賊不容緩。而革命救亡。根本解決。爲祖國計。亦未有逾此者也。須知滿清季年膠廣旅

順已割。各國已布置其勢力範圍。保皇黨日爲革命名瓜分之說。而武昌起義。各國乃點視而莫敢如何。滿清雖有寧贈朋友之心。不得不還我中國。此前事之可師。今日有以外患爲疑者。但以滿清之故事折之可矣。袁猶滿也。虎視中國者。不止一日本。有甘心賣國之袁氏在。縱一國不足以亡我。我亦亡於瓜分。及今討賊。猶未云晚。願我海内外同志共勉之。

(右和訳文)

先般日支交渉問題ニ關シテ已ニ海内外ニ通告シタリシカ今般更ニ此事件ノ顛末ニ付テ我同志ノ為メニ之ヲ詳言ス

(一)日本ノ要求ハ實ニ袁ヨリ之ヲ啓ケリ 袁ハ有賀長雄青柳篤恒ノ關係ヲ以テ大隈重信トノ私交極テ密ナルコトハ人ノ知ル所ナリ大隈カ首相トナリタレハ袁ハ自ラ帝王トナルコトニ付テ日本政府ノ贊助ヲ請求シタルニ此事件ハ重大ナレハ日本内閣ハ之ヲ独断スル能ハス依テ元老ヨリ機宜ヲ指示シ各種ノ条件ヲ提出シ中国ニ向テ要求セリ蓋シ日本人ハ朝鮮事件以来素ヨリ袁ヲ惡メリ袁ハ中国ニ帝タラント欲シテ日本ニ求メタルカ適マ其蔑視ノ心ヲ啓キ且ツ袁ハ狡猾ナレハ一旦志ヲ得レハ更ニ他国ヲ利用シテ日本ノ不利ヲ計ラン

コトヲ慮レリ故ニ種々ノ要求ヲナシテ将来ノ保障トセリ日置公使ト袁トノ第一回会見ノ時『日本國ノ上下ハ素ヨリ總統ヲ疑テ排日派トセリ若シ此度ノ要求ヲ容認セラルレハ始テ排日派ニ非リシコトヲ証スヘシ』ト即チ此寥々タル數語ハ實ニ日本カ為メニスル所アリテ發セシナリ袁カ日本政府ト秘密ノ結託ナカリシナラハ日置公使ハ必ス唐突ニ此言ヲナス能ハス其日本ノ上下ニ疑ハルト曰フハ亦タ聊カ其大隈内閣ノ本意ニ非ルコトヲ示スナリ袁ハ初メ大隈トノ私交ヲ持テ目的達シ易シトナシ元老ノ主張ハ内閣ヲ左右スルコトヲ虞ラス交渉提出ハ相當ノ報酬ト視做セリ伝ニ曰ク人ニ求ムルコトアレハ必ス先ツ之ニ下ルト況ヤ袁ハ其私ノ為メニス豈ニ國家ノ利害ヲ知ランヤ故ニ權ヲ喪ヒ國ヲ売レル袁ノ罪ハ百死贖フナシ論者ハ徒ニ内治綱ナキヲ以テ外患ヲ惹起セル原因トスルモ猶未タ此事ノ真相ヲセサルナリ

(二)交渉ノ状態ト袁ノ詐偽 交渉起リテ袁ハ拒絕スル能ハサルヲ知リタレハ密ニ承認セント欲セリ故ニ御用党ノ領袖タル湯化龍ハ國務大臣ニテアリナカラ弁明セント欲セシニ袁ハ冷語ヲ以テ之ヲ斥ケタリ外字新聞カ其内容ヲ探り得テ条件発表セラレ輿論譁然タルニ及テ官僚派モ亦タ多クハ極

モ事淺ケレハ見ハレ易シ則日本ニシテ果シテ革命党ト助
力ノ密約ヲナサハ則チ袁ヲ見ルコト寄生物ノ如ク一切ノ要
求ハ自フ革命党ニ向テ之ヲ為スヘシ何ソ必スシモ更ニ袁ト
謂レナキノ交渉ヲ為サンヤ況ヤ其条件記載中ニ代テ内乱ヲ
平ルノ一節アルオヤ袁ハ帝タラント欲シ密ニ日本ノ贊助ヲ
求メ此度ノ交渉ヲ啓クニ至テ乃チ禍ヲ他人ニ嫁セント欲セ
リ亦猶ホ曩者宋教仁暗殺事件カ未タ発表セラレサルトキ袁
ハ外国人ニ向テ革命党ハ互ニ暗殺スト謂ヒ又孫逸仙ニ向テ
該兎手ハ人道ノ容レサル所国民ノ共ニ棄ル所ト打電セシカ
如シ詐偽心労シ顔ノ厚キコト鉄ノ如シト謂フヘシ云々（中
略）故ニ吾党ハ此度ノ交渉ニ遇ウテ依然トシテ我目的ヲ持
シ猛厲進行シ毫モ搖動スル所ナシ袁カ壳国ノ罪魁タルヲ知
リタレハ討賊ハ緩フスヘカラス革命ヲ以テ亡滅ヲ救フハ根
本的解決ナリ祖國ノ為メニ計ルニ亦タ此ニ逾ルモノアラサ
ルナリ須ラク知ルヘシ滿清ノ季年ニ膠廣旅順已ニ割キ各國
已ニ其勢力範囲ヲ布置セリ保皇党ハ日ニ革命ハ分割ヲ招ク
ノ説ヲ為セシカ而カモ武昌ニ義軍起リシトキ各国ハ默視シ
テ敢テ如何トモセス滿清ハ寧ロ友邦ニ贈ルノ心アリシト雖
モ我中國ニ還ササルヲ得ス此前事ヲ師トスヘシ今日外患ヲ

前途ニ闕シ或往訪者ニ為シタル談話ノ大要左ノ通りニ有之
候

一、日支交渉問題ハ頗ル難局ニ達セリ或ハ開戦ヲ見ルニ至
ラン是独リ袁世凱カ国政ヲ誤ルノ結果ナリ然レトモ支那
国民ノ多クハ蒙昧ニシテ袁ノ煽動ニ乘セラレ今尚日貨排
斥ヲ企テ間接日本ヲ圧セントス支那国民自ラ不利ノ地ニ
陥リツツアルヲ自覺セサルハ実ニ慨嘆ニ堪ヘサルナリ
一、日支戦争果シテ勃発スルニ至ラハ革命軍ハ必ス相亞テ
蜂起スヘシ若シ幸ニ日支交渉ノ結果如何ニ依リ革命蹶起
モ袁政府ノ内政ヲ修ムル能ハサル限りハ革命戦ハ到底免
ルヘカラサルナリ唯日支交渉ノ結果如何ニ依リ革命蹶起
ノ時期ニ早晚アルノミ革命ノ計画既ニ成算アルニ拘ハラ
ス今日尚之ヲ躊躇スル所以ノモノハ日支交渉危険ノ状態
アルニ際シ一面革命軍ヲ動カスニ至ラハ支那国民ノ意嚮
ハ必ス革命軍ヲ恨ムニ至リ後來ノ内政上大ナル障害ヲ醸
スニ至ルヘキヲ懼ルルヲ以テナリ

一、滿州地方ニ於ケル馬賊ノ蜂起ニ就テハ新聞紙上革命軍

ト提携セルモノアルヲ噂ス是全ク事實ナキニアラス然レ

トモ其勢力ハ甚ダ僅微ニシテ東三省全部ノモノヲ合スル

二 中国革命党關係者ノ動靜ニ闕スル件 三一八

以テ疑トスルモノハ但タ滿清ノ故事ヲ以テ之ヲ考レハ可ナ
リ袁ハ猶ホ満廷ノ如キナリ中国ヲ虎視スルモノハ一ノ日本
ニ止ラス壳国ニ甘心スル袁ノ存在スルアレハ縦ヘ一国ニテ
ハ我ヲ亡ホスニ足ラサルモ我亦タ分割ニ亡ヒン今ニ及テ賊
ヲ討スルハ猶ホ未タ晚シト云ハス願クハ我海内外ノ同志共
ニ之ヲ勉メヨ

三一七 五月一日 李家長崎県知事 大浦内務加藤外務兩大臣外宛

日中交渉問題及中国革命ノ前途ニ闕スル柏文

蔚談話報告ノ件

高秘特收第九一五号

大正四年五月一日

（五月四日接受）

長崎県知事 李家隆介

内務大臣子爵 大浦兼武殿

外務大臣男爵 加藤高明殿

警視総監殿

当地東山手居住中ナリシ亡命支那人柏文蔚ハ今五月一日ヨリ全ク同家ヲ引払ヒ元同人ノ參謀タリシ徐子俊ト共ニ浦上山里村ノ居宅ニ引越シタリシカ日支交渉問題及支那革命ノ

モ漸ク三千内外ヲ出サルヘシ但此等ノ馬賊ノ縁テカ革命
党員ト見ルハ大ナル間違ナリ彼等ハ國家ナク政治思想ナ
キ我利一点ノ輩ノミニシテ群中ニシテ群中ニシテ群中ニシテ
ニ過キス

一、譚人鳳ハ目下南洋ニアルモ近來何等ノ消息ナシ黃興ハ
今尚米国滯在中ナルカ二週間前到来ノ書面ニ依レハ彼ハ
約四週間前同地ニ於テ大病ニ罹リ吐血夥シク漸次快方ニ
アリト云ヘルモ生死甚々氣遣ハシ医診ニ依レハ運動少ナ
キ為メ肥胖病ニ罹リ且憂鬱多キ結果ナリトノコトナリ是
亦袁世凱病毒菌ノ中毒カト咲笑セリ

一、過般ノ上京ニ就テハ大シタル用件ナシ家族ヲ上海ニ居
住セシムル等ノ為メ私事的必要アリシニ過キス六月初旬
ニ至レハ再ヒ上京シ一ヶ月位滯在スヘシ南洋渡航ハ未タ
確定ニ至ラス云々

右御参考迄此段及申（通）報候也

三一八 五月十日 警視庁ヨリ
外務省宛

孫文ノ在京革命党員間ニ配布セル檄文ニ闕ス

ル件

二八三

(五月十一日接受)

乙秘第九三一号

大正四年五月十日

交渉之遠因

在京支那革命党首領孫文ハ別紙ノ如キ檄文ヲ兩三日前在京ノ党员間ニ配布セリ

追テ別紙檄文ニ署名シアル東辟ハ孫文派ノ幹部員ニシテ
革命党本部党務部長居正ノ別号ナレバ同人ノ執筆シタル
モノト認メラル

(別紙)

揭破中止交渉之黒幕以告國人

中日交渉經三月間之談判、袁氏將允日本之大體要求、國人神經、如受痛刺、彷彿失其作用、袁氏又復多方舞弄一面假顧全邦交之名、禁止排外之種種舉動、一面又將關係地方駐屯軍隊、故意調動、以示爲外交上最後之準備、令國人墮其術中、得便私圖、若雖爲石敬塘劉豫、而國人猶莫知甚所以、彼黨袁氏者、固應爲袁氏怙惡、嫁禍於人、國人昧々吠聲吠影、無足怪也、奈何平素以民黨自命、本愛國爲前提、號稱聰明才智之士、有政治上智識者而亦不免爲所擾惑、何不思之甚也、

不思之甚也、

前所述如此如此者須分甲乙說明之

(甲)袁氏當日本公使日置氏所密談如此如此者、係袁氏對日

要求括言之約二條件

第一、要求日本政府、首先承認改共和國爲君主國並承認袁氏爲帝

第二、要求日本政府、驅逐居留日本之革命黨

內閣作成交涉案、交駐北京公使日置氏、日置氏提交於袁氏外交部（時在本年正月十八日）外交部見之、大爲錯愕、請命於袁氏、袁氏囑令秘密、但已成交涉案、二月二日開第一次、全放會議、在袁氏肘下之陸軍部、頗有所聞、初不知由袁氏惹起此段交涉、以爲日本之無理要求、群起反對、交涉風聲、漸々傳播、袁氏各省將軍、及各種機關、亦各電中央、表示反對、並請求宣布交涉之真相、經袁氏以遁辭手法、術之愚之、或從而壓制之、而交涉真相、仍任報紙之模糊影響、終在不明不白中、於是群疑滿腹、衆難塞胸、志行薄弱之黨人、惶恐無措問有乘機降賊、捏造謠言見好於袁氏、譖蔑之矢、遂集注於留東黨人之一部、吁是豈不明交涉真相之進款、抑亦不思之甚也

交渉之真相

二 中國革命党關係者ノ動靜ニ關スル件 三一八

先是袁氏與早稻田大學總長大隈伯、素有交誼、袁氏術得總統即由伯薦有賀長雄博士、爲袁氏顧問、有賀氏就聘、即唱政權移轉由清帝委任全權組織共和政府、又唱必須修改約法之設連篇累讀、同時有早稻田大學敎習浮田和民博士、亦引伸其說爲之鼓吹、（該論見於三年正月太陽雜誌）袁氏心德之、以爲改玉改步得法律及學說上之依據、天下後世、無有議其非者、但恐吾黨之乘時而起也、於是託青柳篤恒氏、（早稻田大學幹事）現爲內閣秘書蒐探吾黨之舉動、得有所謂秘密上書而宣布之（此事見於日本中央新聞）洎大隈伯膺大命、組織內閣、袁氏聞之、喜而不寐、其機關報亦大表歡迎、未幾日本政府調日置益氏爲駐中國公使、日置氏到北京、除照例謁見外、有一日晤面密談、數小時他人鮮有知其內容、祇知有如此如此而已、日置氏含命返國（時在去年十一月下旬）面呈現內閣亦云如此如此、現內閣爲個人交誼上起見、似無不可、但此事關係重大不敢直承認其如此如此、於是請示於元老、而交涉之近因起矣、

交涉之近因

吾人須知日本元老、對中國之意見、利用中國爲帝國、而不

(乙)日本政府因袁氏要求、提出如此如此外開或謂十一條或云二十一條或云細目有五十餘條、其詳不可得聞大體約分數項如左

第一條、以維持東亞之平和、增進中日兩國親善之交誼爲目的者

第一項中國政府將來須承認德國於山東省之條約或由他各種方法、獲得享有一切之收利、移歸日本

第二項中國政府無論於如何之名義性質、不得以山東省內及沿岸之土地島嶼、讓渡、或租借於第三國

第三項中國政府、須許可日本由芝罘或由龍口、開膠濟鐵道連結之鐵道敷設權

第四項中國政府、爲貿易、及外人居住、須速開放山東省內之重要都市爲市場、但有待兩國政府協權之地方、應於別項

二 中国革命党關係者ノ動靜ニ關スル件 三一八

條約協同決定

第二條關於中國從來承認日本於南滿洲及東內蒙古之特殊地位者、

第一項兩締盟國、須約定以旅順大連之租借期、與南滿洲鐵道、安奉鐵道、共延長九十九年

第二項、於南滿洲、及東內蒙古之日本臣民以貿易及製造爲目的、而創設建築物、或爲農業、租借土地、或要求所有之特權、中國政府、相當許可之

第三項日本臣民、於南滿洲及東內蒙古自由旅行及居住、不論如何種類、凡從事商業及工業之權利、中國政府、均當許可之

第四項中國政府、於南滿洲及東內蒙古、須許日本臣民以礦山採掘權、但是等礦山、由兩國政府協同決定之

第五項、中國政府、於左二項欲實行時、第一必先得日本之同意

(一)南滿洲、及東內蒙古、以敷設鐵道爲目的徵向第三國民借入款項

(二)以南滿洲及東內蒙古之地方稅爲擔保而借款項、

第六項中國政府、以南滿洲及東內蒙古之行政財政及軍事爲

警察間、屢起爭議之事實、中國政府當以中國内地重要地方警察置諸中日兩國協同行政之下、或於是等地方之中國警察署、以改良警察政務組織爲目的、僱傭多數之日本人

第四項中國於全國使用之武器彈藥、至少須由日本購入一半或爲日本協同設立武器工廠、其材料由日本購入且須僱傭日本技師

第五項中國政府對於日本須與以武昌與九南鐵道敷設權、及築港(包含船渠在內)諸權利歸於日本、又於該省需外資時、第一項與日本協議

第七項中國政府、對於日本臣民、須與以中國内地傳布佛教之權利

更有一項、最是動_(不明)民之聽、向足爲亂中國亡中國之等大_(不明)者則代平內亂是也

頃者、又有新提案之交付、或云比前更酷、或云比前稍爲讓步、或云名義上爲顧全袁政府體面、其實無稍變更(如在滿土地所有權改爲永代借地權是)總之不離乎亡國者近是

由甲乙兩方面要求對照、甲之要求於乙者甚簡單、乙之所要求於甲者則繁重、甲爲個人謀權利、是滅厄國、乙則爲國家謀權利是亡我中國也、今揣袁氏本意、自信妨於日本之要

目的、聘請顧問、或僱傭教官將第一項先向日本協議

第七項中國政府、自本協約調印後、九十九年間、吉長鐵道之管理行政權歸於日本

第三條 鑑於日本出資者、與漢治萍會社之密接關係且爲增進兩國共同之利益、中國政府須承認左列事項

第一項中國政府、將來須同意以漢治萍會社歸兩國合併組織、且先無日本之承認、不得單獨處分該會社之全財產及權利、並不得使該會社自身、爲同樣之處分

第二項中國政府、無漢治萍會社之承諾、不得以該會社所有附近之全礦山、許他人採掘、且欲實行是等事件時、第一必經該會社之同意

第四條 以確認中國之領土保全爲目的者

第一項中國不得以沿岸之港灣鳴鶴、割讓或租借、於第三國第五條

第一項中國中央政府、須僱傭有力之日本人、爲行政財政軍事之顧問

第二項日本人於中國内地、建設病院、教會學校、須許可其土地所有權

第三項中日兩國政府、當解決相互誤解爲生之事件鑒於兩國第五條

求、不爲已甚、且現內閣有緣、或不料日本々有是要求也、然夫人必自侮、而後人侮之家必自毀、向後人毀、國必自得、而後人伐之向使袁氏慾所要求於日本值歐戰方興之際、實行嚴守中立、必不與人以有畔求乘、且資假道之使、吾恐號不亡而虞亦可以自得也、乃袁氏不出此、而先授人以隙、繼許假置、復要求爲此如此、引盜入室、是誰之罪歟、國人不信、曷不倪交涉之前車

交涉之前車

初日本之欲議膠洲也、其發最後通牒、尚日以交還中國爲目的而先引渡於日本、可見收發表之官樣文章、尚不重自無中國、差見破壞得勢也故方來進兵之先、有所謂日支議定書之發表、舉國譁然阿附袁氏者_(不明)黨人通牒、當時所謂輿論、莫不唾棄黨人不料素爲反對黨人之_(不明)呈時報、有謂日本成軍以出、不爲黨人混跡之云、其意非爲黨人辨黨、蓋黨人之地位、無干當國家主_(不明)作用之資格語爲無意識之_(不明)蔑、適否以見笑而自點耳、厥後、日兵自龍口上陸、_(不明)然戰線、種々舉動、目無中國、袁氏外交不聞與之爭論也、間有電袁力爭此、則申令軍旅向妄動、教百姓勿恐慌而已、今之交涉、袁氏之態度、仍如前也、日向國人言不損重權、其實主

權早暗送也、國人獨不鑒交涉之前車、責袁氏以發國而反節外生枝遷怒黨人、是不明交涉關係、徑屬無意識之言動不值識者一喙矣、

交涉之關係

大凡國際交涉、純由主權作用、甲國與乙國交涉、在甲國方面、必認乙有全權而始與之交涉、乙之視甲亦然、此次中日交涉、事實上係日本政府與袁氏政府、直接交涉不容第三者之干與、即第三者掌右國權而難干與比中交涉、且不可得（外間傳聞美國干涉其實不聞直接干與）須以無權無位之亡命黨人乎、狀記甲午之役清國與日本議和、初派時蔭桓來、日本以其者全權不是代表也、拒之後派李鴻章來、始開議可見交涉之關係往以權位言者、黨人亡命居東日本政府視之其無所謂也明更、乃國人不明關、強加黨人心吳三桂李完用之名、吁何其擬不於倫者是其悖也國人亦知吳三桂李完用、所居之地位乎、吳三桂、明總兵也、李完用韓宰相也、二人皆有權位上之憑藉、故狡乎思逞、得因而利用之設使吳三桂、李完用、爲一平民、或爲亡命客、即難國家榮、准其信也、今舉一例、有一浪子、本年家產、而難將他人家所有之財產、憑空指賣於人試問誰人肯爲買主家產且不能、況國權等

東辟謹啓

三一九 六月二日 中村閑東都督ヨリ
加藤外務大臣宛

中國革命党ニ關係ヲ有スル邦人ニ關シ中國側

ヨリ注意方申出ノ件

附属書 五月二十九日附安東警務署長報告同右件

民高警秘收第二七六二号

大正四年六月二日

（六月七日接受）

関東都督男爵 中村 覺（印）

外務大臣男爵 加藤高明殿

革命党ニ關係ヲ有スル邦人ニ關シ支那側注意方ノ件別紙及
報告候也

（附属書）

大正四年五月二十九日

安東警務署長報告

革命党ニ關係ヲ有スル邦人ニ關シ支那側注意

方ノ件

東邊道尹談國擇ハ本月十八日奉天巡按使ヨリ革命党ニ關係アリト云フ邦人頭山滿外十一名ニ対シ注意方別紙ノ通り公文ニ接シタリト云フ

（別紙）

二 中國革命党關係者ノ動靜ニ關スル件 三一九

李黨人之不能干與交涉、此理至易明也、又有謂「黨人不去日本、心跡終不能明、不免有多少關係」此說尤極幼稚、試問黨人亡命隨過向安日本可以居則居之即如人言、黨人果去日本干涉之乎、如去他國、他國與中國或又有交涉問題發生、黨人又將安適總之、黨人之所以主張革命者以政治不良故、政治不見、即予外人以可乘之隙者宋室式微、金人通處、秦檜執宋權獨主和說岳飛諸將在外抗爭秦檜卽而戮之後世有爲岳飛借者而不日之秦檜固依然年忌也、今袁氏卽秦檜之流亞也、國人之欲排外者或等於岳飛忠文、而不知袁之專心賣國、侈及國人成悔將無及矣試勸吾國歷史凡大奸大駭、賣國求榮者、何異非窃有政柄在失爲須爲者乎、吾聞有匹夫而起革命者、未聞有匹夫而賣國者也此等成近理由、卽顯事實、不待智而知了乃國人猶昧々然無怪外人之欺我國人、吾國人爲未開化人種也、黨人不欲多言、必後中日交涉之結果袁事之變相、而國勢陷於不可爲國人或痛定思痛、始信黨人之主張正大主義昌明、則已晚矣、故黨人於此際除力行革命、推翻袁氏惡劣政府外無可以容喙之餘地、凡屬黨人、深明斯旨則吾國其庶幾乎

省長飭知探得亂黨所勾結之某國浪人姓名其行事跡列單油刷轉發各軍警嚴密偵防是爲至要
十九日晚談道尹接公文
亂黨勾結之浪人

頭山滿

頭山爲浪人界之頭目始唱自由民權論次與官權黨奮鬥歸於失敗旋復破產以償債務遂至信用墮地爲社會所不齒是時適孫逆初來東彼爲金錢計貿然與之定處前年南京叛亂彼往來於甯滬間去歲復與犬養毅先後赴滬代亂黨籌畫一切不意防範嚴密空々而歸今又與諸逆徒秘密往來迭次之借貸與此次之交涉彼皆與有力焉

中野次郎

中野三十年來唱極東之間題利用孫黃作亂冀收漁人之利

中西正樹

中西前常往我國遊歷風俗人情語言無不精通雖年逾六十尚與逆亂相周旋

根津 一

根津爲上海同文書院々長彼專調查我國之政治實業財政並遭

二 中国革命党關係者ノ動静ニ関スル件 三二〇

該院學生往各省府縣鄉村調查各種之出產藉爲逆黨之耳目

安川敬一郎

安川屬於頭山満之一派此次介紹逆黨借款其關係之密切可想而知

菅野長知

菅野與諸逆甚爲接近前者南京之亂彼獲利十餘萬金並縱該國

之剃頭匠搶都督府之財物遂讓成賠償之交涉此次某國逕陳其

美戴天仇意喪心病狂代彼運動雖結局歸於失敗而菅野則感德

寔深甘爲逆黨作走狗

宮崎寅藏滔天

宮崎寅藏若昔年學浪速節之說書未成遂與孫黃諸逆交好贛寧

亂時幾瀕於死後逃竄回東日下日與諸亡命協謀

末永 節

末永爲遼東新報社長彼勾通逆黨常爲之傳遞消息

平山 周

平山與孫逆交最厚初唱朝鮮問題今則呼號奔走又汲汲於支那

問題

伊東爲國民黨議員彼屬於黃興之系統凡與亂黨有關係之事件

無不竭力運動

雲、翟振鏞、潘鼎新、周鼇山、涂樹霖、楊象離、張夜城

等ハ令ニ遵ヒ具結（保証状ヲ差入レ）シ悔罪自首セルニ

ヨリ特赦ヲ請フトアリ唐麟等ハ已ニ悔罪自首ハ真誠ニ出
テタリトスレハ応サニ附乱自首特赦令ニ按照シ特赦ヲ准

予シ以テ寬典ヲ示スヘシ此ニ令ス

トテ六月九日政府公報ヲ以テ公布致居候右ノ如ク所謂純革
命派ノ勢力ハ追々滅殺セラル傍ラ一方參政院ニテハ六月
十一日ノ議事日程ニ懲弁國賊条例案ヲ議定スヘク同条例ハ
頗ル嚴酷ナルモト推測セラレ愈公布ノ上ハ革命一派ノ立
場ハ愈困難ニ赴クヘキモ亦推察ニ余リアリ候

右及報告候也

三二一 六月十六日 在シンガポール藤井領事ヨリ

柏文蔚等シンガボール來着ノ模様報告ノ件

機密公信第一八号

大正四年六月十六日

在新嘉坡

領事 藤 井 実(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

二 中國革命党關係者ノ動静ニ關スル件 三二一

二九〇

内田良平 大竹貢一 杉山茂丸 大原義剛 進藤喜平太

峯岸繁太郎 此數人雖與亂黨不甚親交而常贊賞彼輩謀叛冀

達自己升官發財之目的

三二〇 六月九日 在中國日置公使ヨリ

中国革命一派ノ帰順ニ関スル申令公布ノ件

公第一一九号

(六月十六日接受)

大正四年六月九日

在支那

特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

革命一派唐麟季雨霖等帰順ニ関スル申令公布

ノ件

日支交渉開始以來袁總統政府ハ所謂挙国一致ナル好辞令ノ
下ニ種々ノ方法ニヨリ革命一派ヲ帰順セシメ兎ニ角着々成
功シツツアル次第迭次報告ノ通リナル處六月八日附ノ申令

ニ
陸軍總長段祺瑞駐日陸公使滬海道尹楊景等先後ノ呈称ニ

ヨレハ唐麟、季雨霖、沈縵雲、鄭思源、鄭人康、張登

柏文蔚等來星ノ件

柏文蔚等一行着星ノ件ハ本月十一日往電第六九号ヲ以テ不
取敢及電報置候処柏文蔚ハ張天民白逾桓ハ劉少白ト変名シ
程子楷周震麟外二名ト共三八日伏見丸ニテ到着數日前柏ニ
面会ノ為メ馬來半島「ペラ」州一保ヨリ來着セル党员雷昭
性並ニ劉劍俠外數名ノ者ニ迎ヘラレ一旦日本人旅館播磨ホ
テルニ投宿セルモ一泊ノ上更ニ郊外ニ在ル林義順ノ別荘ニ
入レリ爾來党员愈揚隆ノ儒居ニ集マレル青年革命党员トノ
間ニ屢々來往アリタルカ同党员ニ親交アル一邦人ニ対スル
柏ノ談話ニ依リテ察スルニ柏ハ當分日本ニ帰ラス在本邦同
党员モ亦統々当地方ニ渡来シ各地ニ閑居シテ暫ク生活上ノ
圧迫ヲ脱シ徐ロニ再擧ヲ謀ラントスルモノノ如シ

柏ノ当地ニ着スルヤ袁派ノ監視極メテ嚴重ニシテ一所ニ安
居スルヲ許サス數日ニシテ居所ヲ転々スルノ止ムヲ得サル
有様ニテ柏ハ十五日夜同党機關新聞國民日報社ニ潛入セリ
尚一説トシテ伝ヘラル所ニ依レハ黃興カ米國ノ某資本家
ヨリ軍資金調達ノ約諾ヲ得福建省ノ利權獲得ヲ革命成功後
ノ条件トナシ居レリトノコトナルモ此問題ハ日本ノ利益ト
衝突スルヲ以テ日本政府ノ干涉圧迫ノ為メ到底之力実現ハ

二 中国革命党關係者ノ動静ニ関スル件 三二二

二九二

六ヶ敷カルヘク去リトテ日本ヲ離レテハ事ヲ挙ケ難ク日支交渉問題ノ落着ハ袁政府ヲシテ漸次日本ト接近セシムルノ経路ニ出ツヘキハ自然ノ勢ニシテ轄テ國論鎮靜ノ暁日本ノ提議ニ依リテ日支同盟ヲ実現スルニ至ラハ益々同党ノ窮地ニ陥ルハ極メテ明白ナルヲ以テ徐ロニ前途ノ計ヲ立ツルニ如カス同志ハ宜シク此意ヲ体シテ各自生活ノ途ヲ開キ時期到来ヲ待ツヘシトハ彼等ノ一般ニ觀念シ居ル處ナルヤニ聞及ヒ候彼等所説ノ一班トシテ御参考迄申進候

尚柏ハ近日彼南ニ赴キ翌春煊ト会合スヘク譚人鳳ハ本月上旬上海三向ヒ不日帰星ノ筈ナル趣ニ有之候

右報告旁此段申進候 敬具

三二二 七月二十六日 在香港今井總領事ヨリ

香港ニ於テ孫文名義ノ公債募集ニ関シ具報ノ件
附屬書 中華革命党債券写

(八月四日接受)

大正四年七月二十六日

在香港

外務大臣男爵 加藤高明殿 総領事 今井 忍郎(印)

第三種十円ニシテ其価格標準ヲ日本貨ニ採リ且ツ其印刷ノ如キ當方面ニ於テ作リタルモノト認メラレス恐クハ日本ニ於テ印刷セラレシモノト被認又右ノ債券ハ當地ニ於テ発売スルハ始メテナルモ南洋ニ於テハ疾クニ發售中ノモノニ有之候由当地ニテハ主トシテ日本貨物取扱支那人ニ對シテ募集ヲ為ス等此募集ハ日本ニ於テ策源セラレシモノト思料セラルル廉有之唯タ黃冠周ナルモノ從來知名ノ革命黨員ニモ無之且ツ公債募集ノ一手段トハ云ヘ右様重大ナル計劃ヲ輕々敷ク口外スルカ如キ多少疑フ挾ム可キ個所有之事実黃ノ云フカ如クナルヤ今日迄ノ處俄ニ真相ハ測斷難致候得共今回広東水災以來龍濟光暗殺未遂事件アリ革命党此機ニ乘シ事ヲ挙ク可シトノ謠言流布セラレ一般支那新聞ノ如キモ屢々右ニ闇スル記事ヲ羅列シツツアル際ナルヲ以テ兎モ角往電第四七号説明旁々不敢債券一葉相添ヘ此段及具報候也

追テ本信記載後新聞紙ノ報スル處ニ由レハ過日広東龍濟光ノ軍隊中水災ニ乗シ掠奪ヲ為シ処罰セラレシモノ千余人アリ之等ハ何レモ広東退去ヲ命セラレ其内百五十人 (將官一名アリ) ハ二三日前安徽号ニテ香港ニ來リシ件 当地警察ハ多數ノ警官ヲ船上ニ送リ取調武器其他危險物

二 中国革命党關係者ノ動静ニ關スル件 三二二

過般彼南ニ在ル陳炯明ノ許ヨリ広東ニ行キ同地ニテ龍濟光暗殺ヲ計劃セル党徒黃冠周ナルモノ当香港ニ逃れ来リ本月二十一日頃ヨリ主トシテ当地南北行ニ於ケル日本貨物取扱支那商人ニ對シ孫文名義ノ公債ヲ売渡シツツアリシ處右公債ヲ買取りタル當地三井物産支店ニ出入スル支那人「ブローカー」カ右黃冠周ナルモノヨリ直接聞取リタル處トシテ語ル處ニ由レハ今回ノ公債募集ハ素ヨリ革命ノ費用ニ充ツル目的ニシテ目下日本ニ於ケル孫文、胡漢民、陳其美、米國ニ於ケル黃興、香港ニ於ケル朱執信、洪兆麟(洪ハ過般英國政府ニ捕ヘラレ廣東政府ヨリ引渡請求ニ由リ目下当地ニ於テ裁判中ノモノナリ) 李某及黃冠周等其主ナル党与ニシテ黃興カ陰曆七月末香港ニ來着更ニ澳門ニ赴ク筈ナレハ彼ノ來着ヲ待チ黃冠周ハ郷里惠州ニ於テ又タ李某ハ郷里新寧ニ於テ各土匪ヲ煽動シテ事ヲ挙ケ以テ龍濟光ノ兵ヲ二方ニ分チ其虚ニ乘シテ黃興徒党ヲ率ヒテ廣東省城ヲ衝ク計劃ニシテ公債ハ募集後三日間ニ約二千弗ニ達シタリトノ由ニ有之且ツ黃ハ已ニ政府使僕ノ探偵ヲ買収セルヲ以テ今回募集ノ事実ハ英國官憲ニ探知セラルルコトナシト公言セル由ニ候債券ノ様式ハ添付別紙ノ如キ第一種五百円第二種百円

(附屬書)
ヲ携帶セサルヲ認メタル上上陸ヲ禁シ彼等ハ上海方面ニ赴キタル由ニ付小官ハ直接警察署長ニ真偽ヲ確メタルニロヲ曖昧ニシテ實否ヲ語ラサリシカ各種ノ事実ヲ綜合シ右ハ事実ナリト認メラレ當方面ニ於ケル不穩ノ一例証トシテ御参考迄ニ併而及具報候

写送付先 在支公使、在廣東總領事

中華革命黨債券種圓	No.	一 本債券發行償還均以日本幣爲準
第一 本債券利息爲照券面價格一倍	0 2 5 2 6	一本債券於新政府成立後三年内由財政部定期公告償還
革命債券整理局或原經手之籌餉局換取 本息	第一 一本債券於財政部公告償還後三年内得向	

中華民國 年 月 日
孫文
孫文之印
中華革命黨總理
中華革命黨本部之印

三二三 九月十三日 大隈兼任外務大臣ヨリ 在上海有吉總領事宛

陳其美ノ動静ニ関シ内報ノ件

政機密送第四一号

本年三月何等カノ計画ヲ抱キ窃ニ貴地ニ赴キタル陳其美ハ此程ニ至リ再ヒ窃ニ本邦ニ渡来シタル次第ハ御承知ノ通りニ有之同人ハ曩ニ貴地ニ赴クニ際シテハ非常ナル意氣込ニテ革命計画ニ付貴地方ニ於ケル根底ヲ築キ充分運動ノ歩ヲ進ムル迄ハ死ストモ帰ラズト豪語シタル位ナル由ニ有之候処貴地方ニ於テハ所期ノ計画モ意ノ如ク運ハサルノミナラズ日支交渉開始前後ヨリ陸續帰国シタル多數ノ革命党員アリテ之ニ要スル費用モ中々多額ニ上ル有様ニテ財源モ已ニ枯渴シ旁陳モ到底永ク貴地ニ止マリ得サルコト相成タルモ何等為ス所ナクシテ此儘貴地ヲ去ルハ前言ノ手前モアリ到底忍ヒ得サル所ナルヲ以テ貴地方ニ於ケル情況ノ報告ヲ兼ネ孫文等トノ間ニ其計画ニ対スル将来ノ打合セヲモ為サシカ為不取敢一旦本邦ニ赴クモノナリトノロ実ヲ設ケ再ヒ渡來シタルモノニテ何等具体的ノ見込アリテ來朝シタル次第ニハ無之趣内密ニ聞込候ニ付右御参考迄及御内報候也

本信写送付先 在支公使

三二四 九月二十四日 警視庁ヨリ 外務省宛

孫文等ノ動静報告ノ件

乙秘第一八八一號

(九月二十五日接受)

乙秘第一八八一號
大正四年九月二十四日

一昨二十三日午前七時孫ハ妻盧及下婢一名并ニ朱超ヲ伴ヒ自動車ニテ外出東京駅ニ至リ同七時三十分同駅発車ニテ盧及下婢（阿春順）朱超横浜迄附添ヒトシテ出發孫ハ單独同七時五十五分帰宅セリ

同七時十分陳其美外出青山郵便局ニ至リ戴天仇、胡漢民、金佐治ノ三名ニ宛本日午前十時迄ニ孫方ニ来ル可シトノ意味ノ電報ヲ發シ同八時三十分帰宿セリ
同八時五十五分徐蘇中來訪同九時四十分退出
同九時二十分楊庶堪來訪午後一時十五分退出
同九時三十分田桐來訪午後一時二十五分退出
同九時五十五分王統一來訪午後二時二十五分退出
同十時胡漢民、許崇智、宋振ノ三名來訪同時二十分宋退出、胡、許ハ午後二時二十分退出
同十時四十分戴天仇來訪午後三時四十分退出

三二五 九月二十七日 警視庁ヨリ 外務省宛

同十一時居正、安健、來訪安ハ午後一時十分居ハ二時十分退出
同十一時四十分王靜一來訪午後一時十分退出
午後一時三十分宋振來訪同二時二十分退出
同二時二十分陳其美外出其儘帰宿セズ
同二時二十五分蔣介石來訪同三時四十分退出
同三時五分朱超帰宿セリ
同三時四十分朱超外出同五時二十分帰宿セリ
同七時朱超外出同十一時帰宿
追テ去ル十九日午後三時ヲ期シ同志ノ幹部ヲ召集シ何事力協議ヲナシタル結果同席ニ列シタル幹部ハ自己ノ配下ヲ夫々招致シ今後同志ノ採ルベキ方針ヲ協議シ其決議ヲ孫ニ復命シ之レガ多數ノ意嚮ヲ基礎トシ再三幹部ノ協議ヲ重ね愈々方針確定セシヤニテ昨二十二日陳其美ノ名義ニテ書面ヲ發シ又昨二十三日電報ヲ以テ胡漢民、戴天仇等ニ對シ本日午前十時迄ニ孫方へ召集スル様通報シ相参ジタルモノ胡漢民、田桐、居正、楊庶堪、許崇智、安健、徐蘇中、戴天仇、宋振、王統一、楊庶

二 中国革命党関係者ノ動静ニ関スル件 三二五
三二五 九月二十七日 警視庁ヨリ 外務省宛

在京東中國革命党ノ第三次革命計画ニ關シ内

債ノ件

乙秘第一八八八号

(九月二十八日接受)

大正四年九月二十七日

在京支那革命党員ガ第三次革命企画ニ關スル件ハ昨二十六日乙秘第一八八五号ヲ以テ内報スル處アリシガ尙ホ内債スル處ニ依レバ帝政問題發生以来支那民心ハ多ク大勢ニ圧セラレ表面之レニ贊成ヲ表シ居ルモ其裏面ニ於テハ衷心反対シ居リ過般來長江沿岸一帶ノ地方ノ人民ハ特ニ代表者ヲ我国ニ派シ孫文ニ對シ帝政問題ニ關スル意見ヲ糺シタル上此際討袁ノ義軍ヲ挙ゲラレタキ旨慾懃スル所アリ又南洋方面ニ於ケル同志ハ勿論其他同方面ニ於ケル一般支那人モ帝政ニ反対シ居リ討袁ノ挙ヲ促シ來リ居ルノミナラズ保皇党（光緒皇帝派）ノ主領梁啟超ノ如キモ袁ノ皇帝タルニハ絶対的反対ヲ声明シ（梁ハ帝政ヲ復活セバ宣統皇帝ヲ帝位ニ復セシメ共和政ヲ採ラバ康有為ヲ大總統トナス意見ヲ有シ居レリト）主義ニ於テハ革命党ト異リ居ルモ愈々袁ニシテ皇帝ノ位ニ即クニ至ラバ革命党ト行動ヲ共ニスル態度ヲ示シ來リ且ツ前記ノ如ク一般ノ民心モ大ニ反対シ其氣勢モ益

ル予定ニテ同人ガ上海ニ帰着ノ上在東京ナル革命党本部ハ上海又ハ漢口ノ内何レニカ移転シ東京ハ唯ダーツノ通信所トナス事ニ確定シ居レリト云フ南洋方面ニ在リタル革命党員モ目下夫々潜行ノ上帰國ノ途ニ就キ居ル趣ナルガ彼南ニ

在リタル李烈鈞ハ既ニ新嘉坡ヲ經テ此頃ハ支那内地ノ何レニカ潜入シ居ルニ在ラズヤトノ説アリ又タ在米ノ黃興ト孫文トハ從前ヨリ多少意見ヲ異ニシ居リ今回ノ挙ニ就テモ其ノ時機ノ点ニ於テ意見ヲ異ニシ（孫ハ帝政復活ト同時説ヲ

取り黄ハ復活後自然ニ機ノ熟スルヲ待ツ説ヲ持シ居レリト云フ）居ル由ナルモ目下在米ノ同志ヨリ之レガ調停融和ニ關シ孫ニ申シ込ミ來リタル為メ戴天仇主トナリ目下黃派ノ在京同志ト專ラ折衝ヲ重ネ居レル模様ナリト云フ追テ去ル二十五日民國社ニ於テ在京革命党員中ノ重立者三十余名ノ者ガ袂別記念ノ為メ撮影シタル旨ハ既報ノ次第ナルガ聞ク所ニ依レバ該撮影ハ今回ノ挙ニ就キ単ニ記念ノミノ為メニ撮影シタルニアラズ先日孫文ガ革命運動ノ分担ニ關シ六十余名ニ對シ委任状ヲ交付（先日孫文動靜ニ關スル報告ニ付記報告セリ）シタルガ該委任状ヲ受ケシ者今回帰國シ各方面ニ亘リ運動ヲ為ス上ニ就キ何ニ

々熾ナラントスルニ至リタル結果自然革命党ニ心ヲ歸スル傾向ヲ潮シ來リタルヲ以テ革命党ニ於テモ此ノ機ヲ逸セバ再ビ如斯絶好ノ機ヲ得難シトナシ南洋及米國方面ニ於ケル同志ト氣脈ヲ通ジ此際愈々旗ヲ挙ゲ袁ヲ倒シ真正ナル共和政ノ実ヲ挙グル事ニ決シ袁ノ皇帝ヲ宣シ其位ニ即クヲ俟テ（革命党ニ於テハ袁ノ帝位ニ即クハ來ル一月一日ナリト確信シ居ルモノノ如シ）支那南方ニ於テ討袁ノ旗ヲ翻シ民心ノ帰向ト天運ニ乘シ一挙ニ袁ヲ屠ル計画ヲ立テ其準備ノ為メ在京革命党員中ノ孫文及戴天仇、王統一、田桐、金佐治（以上四名ハ幹部員中ニテ最モ能ク日本語ニ通ジ居ル者）外數名ノ者ヲ除ク外重立者ノ多數ハ昨日來ヨリ袁政府ノ覺知ヲ避クル為メ至極秘密ノ裡ニ三々伍々漸次ニ帰國スル由ナルガ帰國ノ順序ハ本邦ヨリ直チニ上海ニ向ケ出發スルニ於テハ直チニ發覚ノ惧レアレバ大部分ハ何レモ巡回シ途ヲ大連及台灣等ニ取リテ香港ニ赴キ夫レヨリ潛行シテ一先ツ上海ナル仮国租界ニ入ル由ナリ先發トシテハ來ル二十八日神戸出帆ノ笠戸丸（前報笠井丸ハ誤リ）ニテ胡漢民、許崇智、黃復生外五六名ノ者帰國スル者ノ如ク夫レヨリ順次二回三回ト帰國スル筈、陳其美モ來ル十月十日頃ニハ帰國ス

カ手段ニ供スル必要起リタル為メ袂別ヲ兼ネ撮影シタルモノナリト云フ

三二六 十月十日

警視庁ヨリ

中華民國第四周年國慶紀念大会ノ模様報告ノ件

乙秘第一九八〇号

(十月十一日接受)

大正四年十月十日

在京革命派支那人李執中、戴天仇、潭振等ノ主催ニテ本日午後二時ヨリ麹町区大手町ナル大日本私立衛生会ニ於テ大中華民國第四週年國慶紀念会ヲ開キ來会者ハ主催者ヲ初メ在京革命派學生約千三百名内外ニシテ季執中ヨリ開會ノ挨拶ヲナシタル後劉大同ハ孫文ヨリ送付シ來リタル祝詞（別記）ヲ朗讀シ終リテ一同紀念ノ撮影ヲナシ夫ヨリ有志ノ演説ニ移リ戴天仇、陳強、潭振、詹大悲、田桐、成均、張煊、康家偉（陳家鼎ノ妻）、李大斗、余祥忻、黃慎元、何飛雄、王梅森、熊尚父等ハ交々袁總統ノ皇帝即位計画ニ反対トシテ即位ト同時ニ革命ノ運動ヲ再興スペシトノ演説ヲナシタルガ就中戴天仇ノ如キハ本日開催セシ紀念会ニハ少

クトモ二千名以上ノ来会者アル筈ナルニモ不拘千名以上位

少数者トナリタルハ袁總統ノ勢力權威ニ服従シタル為メ來会セサルモノニシテ此趨勢ヨリ觀ルモ袁ノ勢力ガ大ナルヲ推察シテ余アルノミナラス各種ノ情報ヲ綜合スルニ袁ガ皇位ニ即クハ確實ニシテ又近日中ニ實現スルハ明カナレバ吾人同志ハ此時ヲ待チ蹶起シテ革命ノ為勢力せザルベカラス

最早日本ニ於テ同志ノ会合ハ今日ヲ以テ恐ラクハ最後ナラント喝破シテ会衆ノ同情ヲ喚起シ又季執中ハ在米黃興ヨリ送付シ來リタル電文（共和之本創自東京共和之基存於心理一夫作乱千八能指無病而死）ヲ朗讀シテ一同ニ好感ヲ与ヘ

而シテ王梅森、熊尚父等ノ演説中袁總統ヲ賞讃シタル語句アリタル為陳家鼎其他一部ノ学生ハ之ニ憤慨シテ多少ノ紛糾ヲ呈シタルモ何等ノ事ナク中華民国ノ万歳ヲ三唱シテ五時散会セリ

追テ会場内ノ一隅ニ同志ハ此際本国ニ対シ檄文ヲ送ルベシ云々トノ意味ヲ有スル指示ヲナシアリタリ

大会場入口ニ於テ革命同志諸君注意（内容別記）並ニ李執中先生致鄉人某書及ヒ留日學界僑商宣書ト題スル印刷物ヲ入場者ニ配付シタリ

十一月五日
午前七時頭山満方ヨリ使者來リ電報數通持參ス

同九時蔣介石來訪十時退出

同十時半戴天仇來訪同十一時退出

同十一時孫ハ戴天仇ト共ニ民國社ニ至リ同午後一時四十分單獨ニテ帰家ス

同午後二時半王統一來訪同三時半退出

同二時半楊庶堪、李守信來訪同四時退去

同三時宋慶林、人力車ニテ外出同五時五十分退出

同六時牛込区藥王寺町七一鹿門方、李ヨリ宋慶林ニアテ書面一通到着

同八時半菊地良一來訪同九時退出

宋慶林ハ孫方ニ滯在中ナリ追テ孫ハ來ル十日宋慶林ト結婚披露ヲ為ス十数名ノ知人ヲ招待スル模様ナリト云フ

三二八 十一月二十五日 警視庁ヨリ

中国帝制問題ニ對スル在京革命党ノ動静ニ關スル件 三二八

シ報告ノ件

二 中国革命党關係者ノ動靜ニ關スル件 三二八

（別記）孫中山先生祝詞

文以不德。猥隨國中仁人志士之後。張皇國事。卅有餘年矣。辛亥之役。武唱首難。卒底成功。爰定此日。爲國慶紀念其盛典也。於美有七月四日。於法有七月十四日。而於吾中華民國有此十月十日。東西嬉隆何其懿也。此皆所以求永矢於共和於弗替一日之澤。萬禮之慶者也。乃者神姦竊國。妄希非分。民權善對毀滅無遺。至敢籍口籌安。變及國體。同時遂有廢龍國體慶之令告朔。餽羊摧殘靡擊叛逆不道至斯而極。而吾國人於此日其亦念締造艱難。國光之不易愛護之斥勿墜乎抑但悽愴傷心。坐視民國之亡破以爲憑弔事也。慶弔唯吾自擇充斯義也。雖與天地同麻可也。爰爲祝日。

觥觥民族爲國民之柢。共和紀元千歲一遇眷茲嘉辰。國以永固。彼元惡者。與民爲讐。既壞我權。又絕我慶。覆戴不容。人神共憤。招示大義。由結討。百爾君子。念諸先烈。三二七 十一月六日 警視庁ヨリ

孫文ノ動靜報告ノ件

乙秘第三〇二九号
大正四年十一月六日
（十一月八日接受）

乙秘第三一〇四号
大正四年十一月二十五日
（十一月二十六日接受）

支那帝政問題ニ關スル在京革命党ノ感想及其他ニ就キ内偵スルニ大要左ノ如シ

一、支那帝政ノ実施ハ袁ノ從前ヨリノ予定行為ニシテ少シモ珍ラシキ事実ニアラズ日本及外三国ノ延期ニ關スル警告アリタルニ不拘近ク其實現ヲ見ルハ既定ノ事実ニシテ些ノ疑ヲ存セズ

各省ノ將軍中今回ノ帝政問題ニ真ニ衷心ヨリ贊成シ居レルハ独リ段奉天將軍一人位ナラン其他ニ於テモ帝政其ノモノニハ贊成ナレトモ袁ヲ皇帝トシテ戴クニハ反対ナラン日本新聞紙ニ於テ帝政反対者トシテ謳ハレ居ル馮將軍ノ如キモ決シテ帝政反対者ニアラズ唯タ袁ヲシテ南面セシムルニ反対ナリ然レトモ馮將軍ハ目下何等ノ勢力ナク（多少ノ潜勢力ハアレトモ）部下ノ軍隊ノ如キモ目下皆ナ北方ノ兵士ヲ以テ充タサレ自己ニ於テ養成シタル者ハ殆ド皆無ナリ故ニ同將軍ハ現下ノ状勢ニテハ手モ足モ出ス事能ハザラン此ノ外湖南將軍タル湯鄉銘、廣西將軍陸榮廷、廣東將軍龍濟光等四閩ノ事情ノ為メ態度ヲ明ラカ

二 中国革命党關係者ノ動靜ニ閲スル件 三二八

三〇〇

ニセサルモ確カニ帝政反対者ナリ由來支那ノ事ハ万事常理ヲ以テ律スルハ不能ナリ革命ノ如キモ革命ヲナサントシテ焦慮スルモ必ズシモ成功ヲ期スルコト能ハス第一革命ノ如キモ然リ同革命ハ芽ヲ四川省ニ於ケル鐵道問題ニ胚胎シ漸次革命氣運ノ醸釀中一夜突然武昌ニ於ケル一部兵士ノ騷動ガ偶然ノ動機トナリ突發的ニ全國ノ志士起ツテ彼レガ如キ一大事變ヲ挙ケシナリ今回ノ帝制問題ノ如キモ革命ノ為メニハ絶好ノ時機ニシテ且ツ其氣運モ漸ク熟シ来リ居レバ必ズヤ早晚突發的ニ事變ノ勃發ヲ見ルニ至ル可ク此ノ機ニ及ヒ革命党モ亦タ恐ラクハ蹶起スルニ至ルナランモ其時期ハ袁ノ帝位ニ即キシ後ナラン乎ト孫派最高幕僚ノ一人タル戴天仇ハ語リ居レリ

一時反目ノ姿トナリ居リシ孫黃岑李等ノ各派モ過般ノ日支交渉問題ノ為メ稍々融和ノ形ヲ呈シ居リシガ今回ノ帝政問題ニ對シテハ尚一層從來ノ感情歴史等ヲ一擲シ雅量坦懷一致ノ行動ヲ執リ相協応セサル可カラズトテ孫文一派ニ於テハ在京ノ戴天仇ヲ其衝ニ當リ海外各地ノ同志間ニ折衝ヲ重ね居リシガ黃派ノ鉢永建モ先キニ南洋ヨリ入京シ戴天仇ト共ニ斡旋奔走ノ勞ヲ執リタル為メ一層接

近スル事トナリ同人ハ孫派ノ最高幹部タル陳其美、許崇智、胡漢民等ト共ニ既ニ日本ヲ去リ上海及南洋方面ニ於テ同志ノ糾合ニ奔走頻リニ画策ヲ凝ラシ居レル模様ニテ又タ一面ニハ前參議院議長タリシ張繼ハ數日前米國ヨリ黃興ノ旨ヲ含ミテ渡來シ孫一派ノ同志ト會見協議ヲ重ネ居レバ愈各派円満ニ融合一致大同團結シ事一度癡センカ東西南北相呼応シテ起ツニ至ル可キ状勢ニテ又タ從前調達ニ不可能ナリシ軍資金ノ如キモ帝政問題ノ為メ海外同国人ノ反袁思想意外ニ旺盛トナリシタメ資金ノ調達モ從前ニ比シ容易トナリ既ニ米國ニ於テハ三百万円南洋ニ於テハ二百万円調達出来尙ホ支那内地ニ於テモ今回ハ相当ノ調達ハ容易ナルモノノ如シト云フモ唯タ革命党ニ取り一ツノ困難ヲ感スルハ目下歐洲戰ノ為メ各国一般ニ軍需品払底ノタメ武器ノ調達殆ト不可能ナレトモ目下陳其美ガ專ラ南支方面ニ於ケル各軍隊及白狼其他ノ団体ト連絡ヲ執リ居レル由ニテ之レガ為メ武器ノ点ニ付テハ左程困難ハ感シ居ラサルモノノ如シ
革命党ハ最初長江沿岸ノ地方ニ於テ旗ヲ挙クル計画ナリシモ目下同地ハ袁政府ノ警戒非常ニ嚴重ナレバ同地方ニ

於テハ事ヲ挙クルハ頗ル困難ナリトテ之レガ計画ヲ変シ

南支沿岸ノ各省ニ於テ兵ヲ挙ゲテ北進シ少クモ四川ヲ略シタル上揚子江一帶ノ地方ニ出テントスルモノノ如ク其

時期ハ前記ノ如ク帝政実現ノ後ニテ来春二三月頃ナラン

モノノ如クナレトモ要ハ唯タ袁ノ帝位ニ即ク時機ノ遲速

ニ依リテ定マルモノノ如シ

在京革命党員中幹部ニ属スル者ニシテ昨今帰国スル者ア

レトモ此レガ帰國ハ至極秘密ニ附シ党員間ニモ之レヲ知ラシメザルモノノ如ク又タ上海、米國、南洋方面ヨリ党員ノ入京スル者頃日稍々多キヲ加ヘタルガ此等ハ孰レモ各地在住首領ノ命ヲ帶ビ革命ニ関スル打合セノ為メナルモノノ如シ

目下在米ノ黄興ハ先キニ肺患ニ罹リ多量ノ喀血ヲナシ静養中ノ由ナルガ目下殆ド全快シ居レバ病氣ノ都合ニ依リ遅クモ来春早々迄ニハ日本ニ帰米スルコトニ決シ居レリト云フ

写

北機第六一号

大正四年十一月二十九日

在天津

総領事 松 平 恒 雄(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

附属書 十一月二十九日付在天津松平總領事ヨリ在北京

日置公使宛北機第六一号信写
張耀曾ノ動靜ニ閲スル件

機密第七七号

(十二月六日接受)

大正四年十一月二十九日

在天津

総領事 松 平 恒 雄(印)

本日二十九日付在支那日置公使宛北機第六一号往信写送付
一、張耀曾ノ動靜ニ閲スル件
(附属書)

写

北機第六一号

大正四年十一月二十九日

在天津

総領事 松 平 恒 雄

在支那
特命全權公使 日置益殿
張耀曾ノ動靜ニ閲スル件

三二九 十一月二十九日 在天津松平總領事ヨリ

石井外務大臣宛

一 中国革命党關係者ノ動靜ニ閲スル件 三二九

本月二十六日貴電第一二号(大臣宛貴電六六二号)ヲ以テ

三〇一

二 中国革命党關係者ノ動静ニ関スル件 三三〇

三〇二

支那政府ノ圧迫ニ依リ私カニ貴地ヲ逃走シタル張耀曾ノ動

静ニ関シ申越ノ次第有之候處同人ハ二十六日午後七時半着

ノ汽車ニテ東站ニ下車北京ヨリ同行ノ藤岡憲一(正金銀

行員)松本

鈴吉(神田新聞記者)等ト共ニ直チ日本租界旅館芙蓉館ニ投宿同

行ノ邦人二名ハ翌日北京ニ帰還セルガ張ハ着ノ夜北京ニ荷

物ノ送付方ヲ電話シ翌二十七日同人ノ妻ハ其妹ト共ニ荷物

ヲ携ヘ来リ之ヲ交付シタル上即日兩人トモ北京ニ帰還シ張

ハ芙蓉館ニ蟄居外出セズ來訪者ハ支那人二名アリ(花名ハ湯

ル)尚ホ張ノ来津ニ就テハ支那官憲ニ於テ探知シ居ラサル如

ク察セラル而シテ張ハ本日午前十一時発ノ汽船済通丸ニテ

大連ニ向ケ出發セルガ出發ノ際吾警官ニ談リタル處ニヨレ

ハ同地ヨリ便船次第上海ニ向フトノ事ニ有之候

右及報告候 敬具

写送付先 石井外務大臣

在上海有吉總領事

三三〇 十一月三十日 警視庁ヨリ

外務省宛

孫文ノ動靜ニ關シ報告ノ件

乙秘第三一六七号

(十二月一日接受)

同二時三十分張繼、陳策來訪同三時退出

同三時孫文ハ張繼、陳策、覃振ヲ從ヘ徒步ニテ外出青山北町七ノ一民国社ニ至リ事務整理ヲ為シ同所ニテ張繼陳策覃振ト別レ同六時二十分帰宅

同四時五十五分金佐治來訪同五時十分退出

同五時四十五分上海某ヨリ郵便一通到着

同六時戴天仇來訪同三十五分退出

同十一時二十分歐文電報一通發送

附記

孫文ハ田中昂ヨリ五連發短銃一挺ヲ買求ムル筈ノ処本日田

中ヨリ萱野長知ニ托シ送リ來リシモ自衛銃ニ非サルヲ以テ

金佐治ノ手ヨリ田中ノ使者ニ託シ之ヲ返却セシメタリ

乙秘第三一九九号

警視庁ヨリ

外務省宛

孫文ノ動靜ニ關シ報告ノ件

(十二月六日接受)

大正四年十二月五日

一、昨日午前十一時五分黃展雲來訪同十一時十五分退出

一、午後零時十五分金佐治萱野長知來訪同一時二十分各退

二 中国革命党關係者ノ動靜ニ關スル件 三三一 三三二

大正四年十一月三十日

昨二十九日午前八時二十五分上海滿鐵山田某ヨリ書留郵便一通到着

同十時三十分宮崎民藏來訪同十一時退出

同十一時徐蘇中蔡公時來訪セシモ本日午後事務所ニテ面会スベシト告ゲシニヨリ即時退出

同十一時三十五分戴天仇來訪午後一時八分退出午後零時五十五分歐文電報一通發送

午後一時五分王子明王子衡來訪同一時八分退出

同二時八分孫文ハ宋慶林、戴天仇、王子明、王子衡、同伴徒歩ニテ穩田ヨリ宮益坂方面ヲ散歩シ帰途青山北町七丁目

一番地民国社ニ立寄ラントセシモ宋慶林之ヲ拒ミタルヨリ止ムヲ得ズ其意ニ從ヒ同所ニテ王子明、王子衡ト分レ折柄

萱野長知ニ邂逅シ萱野、金佐治、戴天仇、ト共ニ午後二時帰宅ス

同三時十分萱野、金佐治、戴天仇ハ相前後シテ退出

同二時十分上野某ヨリ郵便一通到着

同二時十五分覃振來訪同三時退出

同二時十七分宋慶林人力車ニテ外出同五時五十分帰宅

出

一、午後零時四十分外國郵便一通到着

一、同一時五十五分居正李為雲來訪同四時十五分退出

一、同六時四十分外國郵便二通到着

一、同六時四十五分和田瑞來訪同八時退出

一、同十二時赤坂区靈南坂頭山満ヨリ郵便一通到着

三三二 十二月十一日 警視庁ヨリ

外務省宛

在本邦中國公使館出入者ニ關スル件

乙秘第三二二九号

(十二月十三日接受)

大正四年十二月十一日

一、日本人 出入者ナシ

一、支那人 劉震新、金之錚、熊退

国籍不明外国人「ブレサー」(新聞記者ナリト云
フ)ナル者午前十時三十分來館秘書官孫啓潤ニ面会

シ同十一時頃退館セリ

追テ陸公使ハ去ル九日夫人同伴横浜ノ總領事館ニ赴

三〇三

二 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 三三三 三四四 三五五 三〇四

三三三 十二月十二日 警視庁ヨリ
外務省宛

孫文ト床次代議士等会合ニ關シ報告ノ件

乙秘第三二三二号 (十二月十三日接受)

大正四年十二月十二日

一昨十日孫文ハ麻布区赤星鉄馬別邸ニ於テ載天仇ヲ同伴通

訳トシ午後二時ヨリ五時マデ政友会代議士床次竹二郎同小

森雄介ト会合セシモ内容ヲ秘密ニセルヨリ目下内偵中ナリ

三三四 十二月十三日 黒金山口県知事ヨリ
石井外務大臣宛

中国亡命者譚人鳳等上京ニ関スル件

高第四一四九号 (十二月十五日接受)

大正四年十二月十三日

山口県知事 黒金泰義(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

要注意支那人ノ件

譚人鳳 五十二三年位

蔡公時 三十三年位

右長崎ヲ発シ本月十二日午後六時四十分閑門連絡船ニテ門司ヨリ來閨福岡県ノ通報ニ依リ注意中同七時十分下関駅着
鉄路上京セシニ付其旨廣島県ニ電報通報シ置タリ動靜異状ナシ

右及申(通)報候也

申通報先

内外相大阪府長崎県知事

三三五 十二月十三日 李家長崎県知事ヨリ
一木内務、石井外務両大臣他宛

長崎在住中国革命党員ノ動靜ニ關スル件

高秘特収第四二一六号 (十二月十六日接受)

大正四年十二月十三日

長崎県知事 李家隆介

内務大臣法学博士一木喜徳郎殿

外務大臣 男爵 石井菊次郎殿

警視総監殿

当地居住ノ革命党員白愈桓及彭養光ノ二名去六日出帆ノ博愛丸ニテ上海ヘ渡航ノ疑アル旨及申(通)報置候處同船ハ本日上海ヨリ入港セシニ付同船長ニ就キ調査セシニ白愈桓

ト云ヘリ

先是十二月四日夜佐世保市下京町旅人宿武雄屋へ投宿シタル支那河南省綿商李甲三(三十九年)ト称スル支那人アリ

其挙動商人ト認メラレス常ニ室内ニ蟄居シ何レカノ通信ヲ待チ居ル挙動革命党員ノ一人ナルヘク被認且其人相等彭養光ニ必適スルヨリ尚内査スル所アリシ全ク同人ナルコト判明セリ同人ハ朝鮮釜山ヲ經テ北京方面ニ至ル計画ヲ以テ長崎ヲ出發セシモノノ由ナルモ何等カノ都合ニ依リ同地ニ止マリ居タルモノナリト云フ同人ハ十二月十二日午後八時五十五分長崎着列車ニテ帰着シ南山手ノ居宅三入レリ

右及申(通)報候也

三三六 十二月十三日 李家長崎県知事ヨリ
一木内務、石井外務両大臣他宛

長崎在住中国人留学生帰国ニ關スル件 (十二月十六日接受)

高秘特収第四二一九号 (十二月十六日接受)

大正四年十二月十三日

長崎県知事 李家隆介

湖南省人自称東京高等予備学校生徒

盧国平事

彭乃強三十年

(十二月十二日午後五時十分着東京ヨリ来リ譚人鳳宅ニ投シ居タリシモノ)

湖南省人自称早稻田大学生

楊

二十年

内務大臣法学博士 一木喜徳郎殿

二 中国革命党関係者ノ動靜ニ關スル件 三三六

三〇五

二 中国革命党關係者ノ動静ニ閲スル件 三三七 三三八

(右二人ハ十二月十一日午前六時三十二分着東京
ヨリ来リ是亦譚人鳳宅ニアリタルモノ)

以上三名モ共ニ前記ノ筑後丸ニテ上海ニ向ヒタリ

右及申(通)報候也

追テ支那官費留学生前北京大蔵省書記孫泳子三十年モ同
船ニテ帰国致候条申添置候

高秘特收第四二二〇号

李家長崎県知事ヨリ
一木内務・石井外務両大臣他宛

元安徽衆議院議員タル黄復初帰國ニ閲スル

件

三三七 十二月十三日

(十二月十六日接受)

大正四年十二月十三日

長崎県知事 李家隆介

内務大臣法学博士一木喜徳郎殿
外務大臣 男爵 石井菊次郎殿

警 視 總 監 殿

元安徽衆議院議員

黄復初 三十年

右ハ本年十一月八日東京ヨリ帰着以来市内愛宕町ノ借宅ニ

トノ風説アリ注意中ノ人物ナリシテ以テ之レヲ謝絶セシヲ
以テ同人ハ退出セントシテ玄関口ニ出テシニ依リ謝持ハ之
レヲ見送リ玄関ニ行キ別レンタル際徐ハ携ヘ居タル

「ステッキ」ニテ背口ヨリ謝ノ頭部ヲ二ヶ所殴打シ約二週
間ヲ要スル創傷ヲ負ハシメタリ被害者ヨリノ訴出デニ依リ
加害者ハ所轄渋谷分署ニ引致シ目下取調中ナリ

三三九 十二月十五日 外務省宛

(十二月十六日接受)

乙秘第三二五九号

孫文ノ動靜ニ閲シ報告ノ件

本日午後二時ヨリ麹町区大手町大日本私立衛生会ニ於テ支
那革命党員劉大同主宰者トナリ曩ニ上海ニ於テ上海鎮守使
鄭汝成ヲ暗殺シ処刑セラレタル王曉峯、王銘三、兩名ノ追
悼会ヲ執行ス來會者約六百名(内十名位ノ支那婦人加ハリ
居レリ)ニシテ堂ノ正面ニ「兩王烈士之靈」ト記シタル位
牌ヲ安置シ前ニ一個ノ花環ヲ飾リ其ノ傍ラニ「壯士不返國
魂帰來」
「我事既成雖死無憾」ト大書シタル貼紙ヲナシ又
タ祭壇ノ正面反対ノ側ナル堂ノ柱ニ「鉄血」ト大書シタル
モノ及ビ堂ノ階上階下ニハ少シモ隙間ナク数百枚ト算セラ
ル沈痛淋漓タル輓歌ヲ書シタル貼紙ヲナシ一名ノ留学生

一、昨十四日午前九時四十五分發信人不明ノ郵書二通到着

一、同十時心準來訪同十時十分退出

一、同十時三十五分段覺眞來訪セシモ面会ヲ謝絶ス

一、午後二時十五分外国语書留郵便一通到着

一、同四時五十分王靜一來訪同五時十分退出

一、同六時二十五分在上海山田純三郎ヨリ書留郵便一通到
着

居住中ノモノナリシカ十二月十三日午後四時長崎出帆ノ筑
後丸ニテ上海ニ向ケ出発シタリ

右及申(通)報候也

三三八 十二月十五日

西久保警視總監ヨリ
石井外務大臣宛

甲秘第七〇四号

大正四年十二月十五日

中國革命党員殴打ニ閲スル件

大正四年十二月十五日

警視總監 西久保弘道

外務大臣石井菊次郎殿

神田区三崎町三ノ一、三崎館方

李瑞麟事 徐昌候

三十八年

右者本日午前九時頃府下千駄ヶ谷町字青山北町七ノ一支那
革命党ノ事務所ナル民国社三同党總務部長ノ代理ナル謝持
(別名王靜一)ヲ訪ネ應接室ニ於テ面会シ自分ハ革命党員
ナルガ近日帰國ノ上革命運動ニ從事シタケレバ帰國ノ旅費
ヲ支給セラレタシト要求セシニ謝持ハ此迄テ同人ハ革命党
員ナリト称シ一、二回民国社ニ來リシ事アリシモ袁探ナリ

一、同七時四十五分及同十時十分欧文電報各一通到着

一、同十時二十分外國郵便一通(書留)到着

三四〇 十二月二十日

外務省宛

上海鎮守使鄭汝成ヲ暗殺シ処刑セラレタル革
命黨員追悼会ニ閲スル件

乙秘第三二九一号

支那革命党員追悼会ノ件

大正四年十二月二十日

(十二月二十日接受)

本日午後二時ヨリ麹町区大手町大日本私立衛生会ニ於テ支

那革命党員劉大同主宰者トナリ曩ニ上海ニ於テ上海鎮守使

鄭汝成ヲ暗殺シ処刑セラレタル王曉峯、王銘三、兩名ノ追

悼会ヲ執行ス來會者約六百名(内十名位ノ支那婦人加ハリ
居レリ)ニシテ堂ノ正面ニ「兩王烈士之靈」ト記シタル位

牌ヲ安置シ前ニ一個ノ花環ヲ飾リ其ノ傍ラニ「壯士不返國
魂歸來」
「我事既成雖死無憾」ト大書シタル貼紙ヲナシ又
タ祭壇ノ正面反対ノ側ナル堂ノ柱ニ「鉄血」ト大書シタル
モノ及ビ堂ノ階上階下ニハ少シモ隙間ナク数百枚ト算セラ
ル沈痛淋漓タル輓歌ヲ書シタル貼紙ヲナシ一名ノ留学生

二 中国革命党關係者ノ動靜ニ閲スル件 三三九 三四〇

三〇七

二 中国革命党關係者ノ動静ニ關スル件 三四〇

三〇八

開会ヲ宣スルヤ主宰者劉大同起ツテ開会ノ辭ヲ述ベ終ツテ一同起ツテ鞠躬三拜ノ礼ヲナシ夫レヨリ両名ノ経歴及吊文ヲ朗読シ次テ追悼演説ニ移リ

周徳厚、王安潤、李墨卿、譚人鳳、張繼、蔡公時、周震

鱗、覃振、陳羣、陳家鼎、黃半鄉、劉嗣佐、林德軒、熊

尚文、丁造

ノ十五名演説ヲナシタレトモ支那語ナリシヲ以テ十分ニ其論旨ヲ知ルヲ得サレトモ何レモ帝制ニ反対シ此際第三次、

第四次、第五次ニ及フトモ革命義兵ヲ挙ゲサル可カラズ其機ハ目睫ノ間ニ迫マリ居レリト云フニアリテ弁士中劉大同、譚人鳳、張繼、覃振等ノ演説大要ハ別記ノ通リニシテ同四時三十分閉会セリ

劉大同開会辭ノ大要

本日國家ニ一生ヲ捧ケタル王銘三、王曉峯両君ノ為メ追悼大会ヲ開ク両君ノ死ハ第三革命ニ於ケル最初ノ犠牲ニシテ

中華民国ノ為メニ非常ナル勲功ト云フベシ今日吾人ハ熱誠以テ両君ノ靈ヲ祭ラサル可カラズ

譚人鳳演説ノ大要

中華民国ハ古來ノ歴史ニ徵シ国家文明ノ進歩及ヒ国運ノ隆盛ヲ期セんニハ專制政ヲ去リ共和政ヲ執ラサル可カラズ況ニヤ國民ノ大勢モ共和政ヲ実行セントス國民ハ皆ナ革命者ナラサルハナク又タ革命モ好機ニ乘スルニアランバ遂ケ難シ袁ノ皇帝タルハ革命ノ為メ絶好機ナレバ此ノ機ニ於テ國家ノ進運ニ害アル帝制ニ反シ革命ヲ起ササル可カラズ云々

張繼演説ノ大要

二王烈士ガ國家革命先驅ノ為メ一命ヲ捧げ痛快ナル死ヲ遂ケタルヲ悼ム旨ヲ述ベ夫レヨリ自分多年海外殊ニ歐米ニ居タル為メ留東京学生諸君トテ面識少シトノ意味ヲ述べ次ニ仏國ノ自由主義ニ富メル事及ビ中華民国ノ現状並ニ歐洲戰ノ視察談ヲナシ最後ハ民国ハ再ビ帝制ニ復活セントシ居レバ此ノ機ニ於テ革命ノ義挙ヲナササル可カラズ云々ト述べタリ

覃振演説ノ大要

二王両君ノ追悼大会ニ臨ミ感慨深シ余ハ病躯ニシテ多クヲ言フ能ハズ凡ソ世界何レノ国タリシモ英雄ナキハナシ國家

乱レテ英雄出ツ今ヤ四億ノ中華民国國民中ニ王ノ如キハ誠ニ真ノ英雄ト謂フベシトテ古今英雄ノ事跡ヲ論セリ

三四一 十二月二十日 警視庁ヨリ
外務省宛

日比谷公園松本樓ニ於テ中国革命黨員会合ノ件

乙秘第三二九二号

(十二月二十日接受)

大正四年十二月二十日

本日午後六時ヨリ日比谷公園松本樓ニ於テ支那革命黨員ノ会合アリ会スル者

譚人鳳、蔡公時、張繼、伍川波、廖仲愷、胡鉄生、外十
五名

三四三 十二月二十七日 西久保警視總監ヨリ
石井外務大臣宛

譚人鳳長崎ニ向ケ出発シタル件

甲秘第七三一号

大正四年十二月二十七日

ニシテ一同晚餐ノ上同十時三十分散会セシガ本会ハ本日大日本私立衛生会ニ於ケル追悼会散会後ニ於テ突然一部有志

ノ催シタル譚人鳳ノ歡迎会ナルモノノ如シ

三四二 十二月二十六日 警視庁ヨリ
外務省宛

孫文ノ許ニ上海ヨリ長文ノ暗号電報到着ノ件

乙秘第三三三〇号

右者本日午前八時三十分東京駅発ニテ同国人黃天詳ナル者ト共ニ長崎ニ向ケ出発セシニ依リ神奈川（貴）県ニハ電話シ長崎（貴）県ニハ電報セシガ途中京都市外田中村二五番

二 中國革命党關係者ノ動靜ニ關スル件 三四一 三四二 三四三

三〇九

二 中国革命党関係者ノ動静ニ閲スル件 三四四

三一〇

地南川方止宿同国人黄某方ニ立寄ルヤモ知レサル模様ナリ此段及申(通)報候也

追テ本人ハ滯京中孫逸仙ヲ二回、陸軍士官学校々長与倉少将ヲ二回、革命党本部ヲ二回訪問シタル外同党員及多數留学生等ノ來訪ヲ受ケ去ル十九日在京革命党員ノ主催ニテ襄ニ上海鎮守使鄭汝成ヲ暗殺シ処刑サレタル王曉峯、王銘三両名ノ追悼会ニ臨ミ革命ニ干スル演説ヲナシタル外異ナリタル行動ヲ認メズ

三四四 十二月二十七日 李家長崎県知事ヨリ
一木内務石井外務兩大臣他宛

孫文一派ノ軍事計画ニ閲スル秘密會議二入江

某參加ノ件

高秘特收第四四一〇号 (大正五年一月四日接受)

大正四年十二月二十七日

長崎県知事 李家隆介

内務大臣法学博士一木喜徳郎殿

外務大臣 男爵 石井菊次郎殿

警 視 総 監 殿

長崎市江戸町薬種商入江熊次郎ハ從来支那革命党員ニ同情

現今上海ニ於テハ袁政府反対ノ同志統出シ同地ニ於テ軍事資金既ニ二十万円ヲ得タル状況ニシテ之ヲ以テ同地附近ノ一個師団ヲ買収スルコトトナリ居レルモ或地点占領後ノ守備困難ナルヘキヲ以テ日本ノ在郷軍人若干ヲ募集シ約一個聯隊ヲ作り主トシテ守備ノ任務ニ當テン計画ナリ而シテ募集及輸送等ノ事項ハ一切入江ニ一任シタシ云々

入江ハ目下其計画ニ応スヘキヤ否ヤニ付推考中ノ趣ナルガ日本在郷軍人募集ニ就テハ我參謀本部ヘモ交渉ヲ遂ケシモノノ如キ語氣含マレ居タリ其募集ノ条件トシテハ其報酬ヲ

現在支那軍隊給与額ノ倍額トシ又勲章年金一時金等ノ制ヲモ略内定シ募兵ハ主トシテ九州ニ於テ行フ計画ナリトノコトニ有之候

右御参考迄此段及申(通)報候也

三四五 十二月二十八日 谷口福岡県知事ヨリ
石井外務大臣宛

譚人鳳等長崎二向ヒタル旨報告ノ件

高秘第二〇四〇九号 (大正五年一月四日接受)

大正四年十二月二十八日

二 中国革命党関係者ノ動静ニ閲スル件 三四五 三四六

シ殊ニ亡命者張孟介一派ノ者ニハ多少ノ生活費用ノ立替ヨリ住居及食糧等ノ世話ニ至ルマテ種々援助シツツアル者ニシテ去十二月十二日上京シ同月二十一日帰来シタル趣ナルカ上京ノ用件ニ付密ニ洩ス所ニ依レハ十二月十日當時在京中ナリシ張孟介ヨリ「在東京支那革命党員ノ會議ニ閲シ相談シ度件アルヲ以テ上京セラレ度」云々トノ意味ニテ電報到来シ入江ハ之ニ対シ自分ニ於テ何等用ナシ是非上京ノ必要アラハ旅費ヲ送附スヘキ様返電セシカハ翌十一日金参拵円ヲ電信為替ニテ送付シ來リタルニ付十二日午前十一時二十分発列車ニテ上京シ十六日ヨリ三日間東京青山三丁目支那革命党本部ニ於テ孫逸仙、張孟介、田某外一名ト共ニ革命ニ閲スル秘密會議ニ参加セシカ其際孫逸仙ノ陳ヘタル趣旨ノ大要ハ左ノ如クナリシト云フ

「吾等ノ愛國ノ同志ハ從来党派ヲ異ニシ各派共任意ノ行動ヲ為シ來タルモ革命党本来ノ趣旨ニ反シ且目的ヲ達スル上ニ於テ党派ヲ異ニスルハ最モ不利益ナルニ依リ今回協議ノ結果各派聯合シ恰モ日本軍隊ノ如キ組織ヲ為シタルニ付今後其勢力ハ漸次増進シ得ヘキモ未タ満足ナルヲ得ス

福岡県知事 谷口留五郎(印)
外務大臣男爵 石井菊次郎殿

申(通)報先 内務大臣外務大臣警視総監

佐賀山口長崎県知事

支那亡命者 譚人鳳

同 黃天詳

右ハ本日午前十時二十分東京ヨリ門司鉄道棧橋着同十時四十五分門司駅發長崎ヘ向ヒタルニ依リ佐賀県へ注意引繼ヲ了セリ管下通過中動靜更ニ異状ヲ認メス

右及申(通)報候也

三四六 十二月二十九日 警視庁ヨリ
外務省宛

孫文ノ動静ニ閲シ報告ノ件

乙秘第三三四三号 (大正五年一月四日接受)

大正四年十二月二十九日

一、昨二十八日午前十時二十二分金佐治來訪同十一時退出

一、同前十一時四十分居正來訪午後零時五十五分退出

一、同前十一時五十分宋慶林ハ人力車ニテ外出午後一時五十分帰宅セリ

二 中国革命党關係者ノ動靜ニ關スル件 三四七

一、午後二時二十五分王靜一來訪同六時二十分退出

警 視 総 監 殿

一、同三時四十五分譚平、王庭來訪同四時四十五分各退出

一、同四時歐文電報一通到着

亡命支那人帰着ノ件
支那革命党員

一、同六時二十七分心準來訪同六時四十分退出

譚 人 凤 五十七年

一、同六時二十八分丸善株式会社ヨリ包一個到着

三四七 十二月二十九日 李家長崎県知事ヨリ
一木内務、石井外務両大臣他宛

譚人鳳等長崎へ帰着ノ旨報告ノ件

高秘特收第四四五号 (大正五年一月四日接受)

大正四年十二月二十九日

長崎県知事 李 家 隆 介

内務大臣法学博士一木嘉徳郎殿

外務大臣 男爵 石井菊次郎殿

右ハ十二月十二日亡命者蔡誠一同伴上京セシモノニシテ
二月二十七日午前八時半新橋發長崎ニ向ヒシ旨警視(貴)
所ヨリノ電報ニ依リ注意中ノ處同人ハ昨二十八日午後五時
十分長崎着列車ニテ支那人黃天詳(令二十七年)同伴來着
南山手三十五番ノ借宅ニ入レリ

黃天詳ノ身分ニ就テハ何等語ラス調査中ナリ

右及申(通)報候也

事項三 中 国 改 革 借 款 一 件

三四八 一月四日

在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

行政費ニ流用ノ為改革借款賠償金勘定ノ剩余

金全部引渡方ニ関シ中國財務部ノ要請アリタ

ルニ付請訓ノ件

附記 大正三年十二月二十八日附外交部ヨリ在北京外

交團首席公使宛公文

改革借款賠償準備金剩余額ヲ行政費ニ流用ノ為

引渡方要請ノ件

第壹号

去ル十一月中財政部ヨリ五國銀行團ニ向ヒテ改革借款賠償

金勘定ヨリ百万磅引渡方要求シタルニ対シ五國銀行團ヨリ

右ハ関係各國公使館ト支那側トノ交渉解決ニ待タサルベカラ

サル趣ヲ回答シタル次第ハ當時報告及置キタル處本件ニ

關シ十二月二十八日附公文ヲ以テ外交部ヨリ首席公使ニ對

シ大要左ノ如ク照会シ來レリ

「革命損害賠償事件中未了ノ分ハ其後解決ヲ告ケ若クハ撤

回セラレタル為今後仕払ヲ要スキモノ六万六千磅ヲ余ス
ノミトナリ之ニ既往ニ於ケル仕払額六十二万七千磅ヲ加フ